

この一年のあゆみ

(令和3年度)



みどりキッズヒーロー
みどりツチヨマン



小金井市

本町児童館・東児童館・貫井南児童館・緑児童館

目次

I	小金井市児童館運営基本方針	1
II	事業目標・この一年をふりかえって	5
1	共通事業計画・この一年をふりかえって	6
2	各児童館事業計画・この一年をふりかえって	8
III	主な日常活動	25
1	乳幼児と保護者に対する事業	26
(1)	子育てひろば事業	27
(2)	幼児グループ	28
2	小学生の活動	29
(1)	開館時間延長時の利用者数	30
(2)	小学生グループ	30
(3)	夏期クラブとわんぱく団の中止について	31
(4)	四館合同行事	32
①	移動児童館わんぱく号	32
②	恐怖探偵団	33
③	逃走中 in くじら山	33
④	児童館謎解きウォークラリー ～キク・ゲイツの逆襲～	34
⑤	会議だヨ！全員集合！パートⅡ	35
3	中・高校生世代の活動	36
	夜間開館事業とボランティア活動	37
4	支援の必要な子どもたちへの取組	38
5	相談事業	39
6	食育の取組	41
7	大人の活動	43
8	子ども週間行事、市民まつり子ども部門行事、新春たこあげ大会	44
	参考：冒険遊び場等健全育成事業（プレーパーク事業）	44
9	その他行事	45
IV	資料	57
1	利用状況	58
2	予算関係	60
3	施設概要	61
4	職員体制	61

【表紙写真】 「逃走中 in くじら山の様子」

I 小金井市児童館運営基本方針



ダンス・ラボ（本町児童館）



パパママ講座（東児童館）



ミニゴーストハンティング（貫井南児童館）



みどりドキドキフェスティバル（緑児童館）

小金井市児童館運営基本方針

平成19年4月1日制定

平成31年4月1日一部改定

令和3年4月1日一部改定

小金井市の児童館は、乳幼児と保護者への支援から、中・高校生世代への居場所作りまで、様々な施策を行っています。

児童館は、子ども一人一人が安全な環境の中で遊びを通して仲間との関わりの中で育つ、子どもの健全な成長を願う地域の人たちが手をつないだ地域の子育て、子育て、健全育成の拠点として、「のびゆくこどもプラン 小金井」（小金井市子ども・子育て支援事業計画）、「小金井市子どもの権利に関する条例」、「児童館ガイドライン」（平成30年10月厚生労働省改正）に則し、以下のことを柱として児童館運営基本方針とします。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止について、国や都及び市からの指示に迅速に対応しながら、施設や利用者の安全を第一とした運営を行います。

1 乳幼児の保護者に対する施策の充実

- (1) 「行きたいときに気軽に行ける場を」という強い要望に応え、乳幼児と保護者の居場所としての子育てひろば事業を充実させていく。
- (2) 子育てに関する相談や幅広い対応のため、他機関の協力も得ながら、専門家による相談事業や講習会を行っていく。
- (3) 保護者の主体的な活動を支援し、地域に子育ての輪を広げるために、幼児グループの活動を充実させていく。

2 小学生に対する事業の充実

- (1) 小学生、特に高学年の下校時間、来館時間に合わせた開館時間延長の試行を継続していく。
- (2) 子どもの自主性・創造性を育むために、異年齢同士の協力関係を作るために、小学生のグループ活動を各児童館の独自性を打ち出しながら行っていく。
- (3) 小学生の活動は、子どもの意見を取り入れながら、工作・料理・アウトドア活動など幅広く展開していく。
- (4) 文化・芸術・アウトドア（野外）等、幅広く魅力ある企画を実施するために、地域の人材やボランティアの協力を得る。
- (5) 小学生に対して創作、体力増進、異年齢集団での仲間作り等を主旨とした事業を行っていく。
- (6) 合同事業について、四館協力して実施していく。

3 居場所作りを中心とした、中・高校生世代に対する施策の充実

- (1) 中・高校生世代の居場所作りを基本とした夜間開館事業を含めて拡充していく。その中で、施設面を活かしながら、その世代の趣向に応じた事業も開拓していく。
- (2) 中・高校生世代を地域の重要な人材として捉え、日常的なボランティアとしての育成とともに、自主的な活動や社会参画を支援する。

4 相談事業及び子どもの問題に対する地域や関係機関との連携した取組

- (1) 子ども・保護者からの相談に対応できるよう相談事業に力を入れて行く。
- (2) 来館する子ども一人一人に日常的に目を向けて、子どもと信頼関係を築き、子どもまたは保護者とともに問題の解決を図っていく。
- (3) 虐待等の問題に対応するために、子ども家庭支援センターを中心とした市のネットワークの中で他機関と連携していく。
- (4) 地域の人材をボランティア又は講師として活用して幅広い事業を展開し、職員はコーディネーターとして、子どもとの橋渡しを行う。
- (5) 青少年健全育成地区委員会、学校、子供会、民生・児童委員等と今後も関係を強めていく。
- (6) 子育て支援や児童文化活動を行う各種の地域組織と連携していく。
- (7) 施設運営に際し、利用者及び地域の人たちからの意見、要望を取り入れ、また理解を得られるように、話し合う機会を設ける。

5 子どもや利用者の安全を守るための取組

- (1) 児童館施設安全管理及び緊急対応マニュアルを規範として、日常的に危機管理意識を持ち、防災、事故の抑制、不審者の対策にあたる。
- (2) 利用者や児童の参加による、災害・不審者に対応した訓練を実施する。
- (3) 地域の安全という視点で、防災や不審者対策については、必要に応じて地域団体等と連携していく。

— 児童館のたより紹介 —

小金井市児童館四館合同行事

児童館謎解きウォークラリー
～キク・ゲイツの逆襲～

イベント開催期間：令和3年8月2日(月)～8月30日(月)

ミッション実施可能時間：児童館開館日の午前10時から午後5時まで

場所：市内各児童館（新型コロナウイルス感染症 拡大防止のためマスクを着けてきて下さい）

参加対象：小学生から中学生まで、先着100人

最終決戦日：令和3年9月19日(日) 午後1時～午後5時の561時間（時間はお天候次第）
（最終決戦はウォークラリーをクリアした子ども先着60人対象）

キク・ゲイツの逆襲

児童館探検の女王
キク・ゲイツ

キークキクキクキク！！

私の名前はキク・ゲイツ、悪魔世界の女王だ！私は3月に小金井市の子どもたちに「オンライン脱出ゲーム」というゲームを作ったキク。とても楽しく遊んでもらうことが出来ないと悩んでいたのにクリアした者がたくさんいたキク...なので！今日はさらに新しい「児童館謎解きウォークラリー」という大冒険を作ったキク！！4つの児童館で私の仲間たちがそれぞれ2つずつミッションを作ったキク。集まってきた仲間たちと協力してみよう！！

ざっっついに不可能だとは思って全児童館のミッションをクリアしたらゲームクリアデキキ！なんと早くクリアした60人にはこのキク・ゲイツ様と直接対決できるチャンスを与えてやるキク！そこで私が直接叩きのめしてやるキク！！覚悟しておけキク！！！！

お問い合わせはこちら！

 翠林じどうかん 042-383-1176
 新じどうかん 042-383-1177
 新井園じどうかん 042-383-9777
 福じどうかん 042-383-8810

児童館謎解きウォークラリーの遊び方！

小金井市内4つの児童館を巡るウォークラリーです。

本町児童館・東児童館・高井南児童館・緑児童館のミッションをクリアしてスタンプを集めよう！

ミッションは「謎解きミッション」と「チャレンジミッション」の2つがあります。

- 最初に挑戦する児童館を決めて、その児童館のオンラインの謎解きミッションに挑戦！
- 児童館に行って謎解きの答えを児童館の職員に伝えよう。 **スタンプカードは最初の児童館でもらえるよ！**
- 答えがあてたら、次はチャレンジミッションに挑戦！
- 謎解きミッションとチャレンジミッションのどちらもクリアできたら、スタンプゲット！
- 本町・東・高井南・緑の4つの児童館のスタンプをゲットしたらウォークラリー完全クリア！先着100人には景品が出るぞ！
- そして、ウォークラリーを完全クリアした先着60人はキク・ゲイツ最終決戦への挑戦権がもらえるよ！最終決戦は完全クリアしてから申し込みのよ。詳しくは児童館の職員まで聞いてね！
- 最終決戦は9月19日(日)、午後1時～午後5時、小金井市総合体育館にて開催されるぞ！

今更こそキク・ゲイツを倒してやろう！

～謎解きミッションのやり方～

1.オンラインの場所は
小金井市ホームページ「遊ぶ・でかける」→「児童館」→「小金井市児童館四館合同行事のお知らせ」→「児童館謎解きウォークラリー～キク・ゲイツの逆襲～」にアクセスしてください。
QRコードから児童館のページにアクセスすることもできます。 
カメラで読み取ってください！

2.オンライン環境がない人は、各児童館で謎解き用紙を4館分配布しています。

児童館四館合同行事とは！

市内の子どもたちと児童館が一緒に作り上げる年に1度のイベントです！普段で子どもスタッフを募集し、月2回の子ども会議でアイデアを出し合って、それぞれの児童館で楽しい謎やゲームを考えました。児童館ごとの特色あるミッションにぜひ挑戦してみてください！

小金井市には子どもたちの権利を保障する「子どもの権利に関する条例」があり、この条例の中には、子どもたちが自分の意見や考えを表明することは権利であることが書かれています。児童館はそうした子どもたちの権利を守り、「やりたいこと」を実現するための施設です。

オンライン脱出ゲームの号外たより

— 移動児童館特別編へ参加したボランティアの紹介 —



逃走中 in くじら山
～きみはハンターから逃げ切れるか?!～



恐怖探偵団
～くじら山の七不思議を解き明かせ!～

Ⅱ 事業目標・この一年をふりかえって



屋上遊び（本町児童館）



ちよこっとフェスタ（東児童館）



ぬくぬくふえす（貫井南児童館）



高学年グループ お別れ遠足（緑児童館）

令和3年度 小金井市児童館四館合同事業計画

小金井市児童館運営基本方針、児童館ガイドライン、小金井市子どもの権利に関する条例に基づき、以下のとおり令和3年度の合同事業について、四館協力しながら取り組みます。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた事業運営に取り組むと共に、新たな事業作りを目指します。

1 乳幼児と保護者に対する施策

- (1) 市の子育てひろば事業の各課連携のメンバーとして、学童保育所及び他課と協力していきます。
- (2) 各児童館での子育てひろば事業における、利用者からのニーズの反映と幅広い広報の充実を図るために、定期的に担当者会議を行い、全体的な子育てひろば事業の向上を目指します。

2 小学生から中・高校生世代までを対象とする施策

- (1) 小学生の放課後の実情に合わせ、小学校4年生以上を対象とした開館延長の試行事業を継続します。
- (2) 野外体験や地域の環境保全の働きかけの場として、移動児童館事業を実施（年間9回）し、8月後半には「わんぱく団」を実施します（いずれも都立武蔵野公園くじら山周辺で実施）。
- (3) 「小金井市子どもの権利に関する条例」の条項を活かし、小学生以上の子どもたちが主体的にかかわる事業を四館協力して行います。今年度については、これまでの事業を見直し新たな合同事業を実施します。
- (4) 地域の多くの中・高校生世代がボランティアとしてかかわれるように、館を越えた広い呼びかけを行い、地域の人材としての受け入れに努め、またボランティア同士が交流する機会を作ります。
- (5) 中・高校生世代のボランティアに対しては、意見表明の場を作り、それを事業に活かします。

3 その他

- (1) 各児童館に意見箱を設置し、子どもたちから意見や要望を、所定の用紙に記入し、投函してもらいます。その内容について、回答を月1回館内に貼りだします。
- (2) 子どもや利用者に児童館をわかりやすく知ってもらうため、館内に事業の紹介やルール等の掲示、活動結果の展示を常にします。
- (3) 職員研修会を年2回実施します。また子どもの権利等、職員のスキルに必要な法令や施策については、継続的に勉強会を行います。

令和3年度 小金井市児童館のこの1年

新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながらの開館運営は2年目に入りました。令和3年度は前年度に比べて、緊急事態宣言等の行動制限の措置が取られた期間が長く、子どもたちへの感染も増えてきましたが、長期にわたる休館措置もなく、事業内容を色々模索し、できることだけを実施した令和2年度に比べ、状況を見ながらできることを増やしていったことで、少しではありますが日常を取り戻していているような実感がありました。

感染対策として、一日複数回での消毒作業、来館時の検温、消毒、原則的なマスクの着用といったことは日々続けてまいりました。その中で毎月1回は総合的な見直しを図り、国等の指針も踏まえながら、一度の活動人数を増やすこと、昨年度全くできなかった事業の中から、できることだけ取り出して行うことなど、少しでも前進できるように工夫しました。

そうは言っても、感染対策の限界もあるので、「食べること」「調理すること」「宿泊すること」は、残念ながら検討するところまでも行かず、結果的には多くの恒例行事、特に夏休みに行ってきた「夏期クラブ」や「わんぱく団」といった大きな行事は早々と中止としました。ですが、「集まる」ということ自体は少しずつ緩和の方向に向かえたことで、人数を減らしたり、場所を広くとることで実現させた行事もありました。

合同事業では、昨年度後半にオンラインでの情報発信を基本とした事業に臨みました。引き続きそれを活かすことから始め、夏休みを利用して、各児童館から発信された「謎」を各自解きながら、ウォークラリーのように全児童館を巡って、児童館で用意したゲームに挑戦するというイベントを行いました(P34)。それだけでは子どもたちが集まるほどでもなかったのですが、9月にウォークラリーを「制覇」した子どもたちを全員集めて、最終決戦のゲームイベントを市の総合体育館で行いました。総勢40人弱の小学生と10数人のボランティアと、イベントと呼ぶには少ない人数ですが、そこでゲームに興じる子どもたちの楽しそうな顔は、何となく忘れかけていたものを思い出させてくれた気がしました。

また合同事業では、10月に行った「肝試し」(計画では8月)や、3月に行った「逃走中」(いずれもP33)は、どちらも広い野外での事業なので、館内で行うよりも多い人数を募集できました。募集は抽選にしましたがどちらの事業も公募の3倍以上の申し込みがあり、小学生世代が保護者のニーズも含め、イベントへの参加を強く待ち望んでいることが感じられました。

次年度もコロナ禍であることは予想できますが、今後も少しずつやれることは増やしていけると確信しています。新たな取組みであったオンラインを利用したの行事も選択肢の一つではありましたが、多くの子どもたちが一堂に会して触れ合いながら楽しむことこそ、児童館に求められているものであり、児童館スタイルであることを強く感じました。

令和3年度 本町児童館事業計画

小金井市児童館運営基本方針、児童館ガイドライン及び小金井市子どもの権利に関する条例に基づき、以下のとおり令和3年度事業計画を策定します。また、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を最優先し、事業の実施については、それに対応していきます。

施設及び事業の運営については、令和3年度も引き続きほんちょう学童保育所と施設の一部の共用化を図るなど、互いに協力しながら行っていきます。

1 乳幼児と保護者に対する事業

- (1) 地域の乳幼児と保護者の居場所作りを中心とした「子育てひろば事業」を、以下のとおり実施します。
 - ① 「乳幼児のつどい」として、遊戯室を月曜日、水曜日、木曜日の午前10時から午後2時まで開放します。
 - ② 月曜日は「0～2歳児」、水曜日は「1歳児」、木曜日は「0歳児」と曜日ごとに年齢別の交流会を実施します。
- (2) 今まで以上に保護者と子どもが利用しやすいスペースとなるように整備します。
- (3) 子育てひろばでは、食育・健康・生活・読書推進活動として絵本の紹介等、子育てや子どもに関する講座や相談会を、保護者の意見を取り入れ、地域の人材や市の関係機関の協力を得ながら実施します。
- (4) 父親の子育てへの参加を支援するための事業を実施します。
- (5) 親子での交流を目的とした、保護者が主体的に運営する幼児グループを、2歳児以上合同として週2回行います。
- (6) 幼児グループの保護者の自主活動と交流の促進を図ります。またグループ同士の情報交換会を実施します。
- (7) 幼児を持つ保護者同士の交流を支援します。また、幼稚園児世代対象の事業を、その保護者やOBのボランティアの協力によって実施します。

2 小学生に対する事業

- (1) 自由来館の児童の一人一人に対して積極的に関わり、信頼関係を築きます。
- (2) 1年生から3年生までの低学年グループを、毎週火曜日と金曜日の2回に分け、それぞれ実施します。
- (3) 4年生以上の高学年グループを、毎週水曜日にチャレンジグループとハンドメイドグループに分けて実施します。
- (4) 子どもに関わっている自主グループを支援し、行事の企画実施・指導に地域のボランティアの力を取り入れ、幅広い内容の活動を実施します。
- (5) 子どもたちが準備から実施まで関わる四館合同事業を、他の児童館と協力して実施します。
- (6) 異年齢の子どもが交流できるよう、遊戯室を有効に活用していきます。
- (7) 夏休みの特別事業として、夏期クラブをボランティアの意見を取り入れて、企画実施します。
- (8) 掲示板等も活用し、子どもたちの意見を行事に取り入れます。

3 中・高校生世代に対する施策

- (1) 来館する一人一人と信頼関係を構築し、意見や要望または相談にも対応できるように努めます。
- (2) 中・高校生世代のボランティア、職場体験実習を積極的に受け入れます。特に夏期クラブでは事前の企画から参加を募ります。
- (3) 土曜日や開館延長時では活動場所を確保し、居場所づくりを行います。また異年齢の子どもたちと触れ合うことのできる環境を整えます。
- (4) 乳幼児との異世代交流事業として、8月の乳幼児のつどい、学校休業日にボランティアとして参加を募ります。
- (5) 中・高校生世代の意見や要望には、ボランティア等の協力を得ながら事業につなげます。また自主的な活動の場を提供します。

4 相談事業及び子どもの問題に対する地域や関係機関との連携した取組

- (1) 配慮の必要な子どもについては、問題の解決に向けて支援していきます。また、職員だけでの対応が難しい場合には、保護者やボランティアの協力を得ます。
- (2) 保護者からの子育てに関する軽易な相談や子ども自身からの相談を受けます。深刻な相談については、その後適切な機関とつながるように配慮します。また、その後の支援に努めます。
- (3) 地域の子育てや健全育成に関わる人たちの拠点となるような施設を目指します。特に、大学生・青年ボランティアと子どもとの関わりを深めます。
- (4) 子どもに関係する様々な自主サークル（グループ）を支援し、児童館でその力を発揮する機会を作ります。
- (5) 近隣の学校・子ども家庭支援センター・児童発達支援センター・主任児童委員・青少年健全育成地区委員会等の関係機関とよりよい関係を作ります。また、虐待またはその疑いのあるケースについては、子ども家庭支援センターに通報し、必要に応じて連携します。
- (6) 利用者懇談会を実施し、施設の運営や地域の子どもの問題、安全に対して、利用者のもとより近隣や地域組織の方々からも意見をいただく機会を設けます。
- (7) 子供会等、子どものために活動する地域の大人の組織に対し協力・連携をし、その活動の場の提供を行います。
- (8) 食育については、地域のボランティアや市内の生産者の協力を得て、乳幼児の保護者対象に講座、イベント等を実施します。また、小学生に対しても環境や食材の知識を学べる事業を実施します。

5 子どもや利用者の安全を守るための取組

- (1) 館庭での火の取扱いや騒音には十分な注意をし、近隣の住民の方々から理解を得られるように努めます。
- (2) 優良防火対象物認定施設として、職員のスキルのアップ、施設の整備には万全を期します。
- (3) 防災及び不審者対策とした訓練について、学童保育所と合同で3回、乳幼児を対象として館独自で3回、年計6回実施します。
- (4) 児童館施設安全管理及び緊急対応マニュアルを規範として、子どもたちの安全を図ります。

令和3年度 本町児童館のこの1年

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染症対策に努めた一年となりました。外出や遠出が懸念される中、乳幼児を含む子どもたちにとっての地域の貴重な遊び場・居場所となったと感じています。

令和3年度も計画をしていた多くの行事が中止となりましたが、工作や集団遊び等を工夫しながら行いました。また、令和2年度は曜日によっては午後に小中学生の利用が集中し過ぎたため、低学年と高学年で利用時間を分けた日もありましたが、令和3年度は遊び場として、賑わう日もあったものの、それほどの混乱もなく、常に子どもたちを受け入れることができました。

1 乳幼児と保護者に対する事業（子育てひろば事業・幼児グループ）

子育てひろば事業「乳幼児のつどい」は、交流会や季節行事などを定例的に行いながら、午後2時までのフリースペースとして開設しました。昼食をとることは令和2年度に引き続きできなかつたため、午後の利用は平成31年度以前と比べると減少気味です。

午前中は前年度と比較してもそれほどの増減はなく、特に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が明けてからは、毎回遊戯室が賑わいました。遊戯室が混みあっていると工作室や図書室も開放して自由に好きな部屋で遊べるようにしました。

5月からスタートした幼児グループの参加者は減少しました。しかし、少ない人数にも関わらず、参加者は仲良く協力し合って、まとまりのある活動を作っていました。参加者数の減少については、他の児童館同様に保護者の就労と子どもの保育入園が増えていることが大きな理由ですが、子育てひろば利用者の日常的话题が保育園のことであることや、子どもが1歳2歳になるにつれて、ひろばの利用者数が減ることなどから、年度途中から来年度少なくなることは、ある程度予想できるようになりました。

以前行っていた幼児対象のクッキングイベントや楽器等での音楽会などは調理ができないことやボランティアの人数制限のため、中止としました。そのために、工作行事の対象を幼児にまで広げ、3歳児から就学前の子どもが参加できる行事を行いました。

2 小学生に対する事業

コロナ禍の子どもたちの生活は学校も含め、あまり変わっていませんが、児童館で見る限り、子どもたちの表情が前年度よりも明るくなっているように感じられました。

本町児童館で一番広いフロア（遊戯室）は密を防ぐことや激しい遊びを禁止したことで、スペースを区切るための防球ネットを中央に敷き、卓球とその他の遊び（ボードゲームや宿題、塗り絵など）で時間ごとに分けて利用してもらいました。卓球はやはり人気が高く、予約表は子どもたちの名前がすぐに埋まりました。

以前は児童館以外に地域に遊び場が少ないため、小学生の自由来館者数が他の児童館と比較して多い時期もありましたが、数年前から近隣の小学校で保護者を中心とした校庭開放などが始まったことで、良い意味で遊び場が「分散」してしま

た。しかしながら、コロナ禍で地域のそうした活動が出来なくなったことで、令和2年度はまた児童館に子どもたちが集中していました。令和3年度は2学期から、また校庭開放等が定期的開催されることになったことで、再び児童館の来館者数は一定落ち着いてきました。子どもたち自身が放課後どこで過ごすのか、地域の遊び場の選択肢が増えることの重要性を改めて感じました。

低学年グループや高学年グループ、行事についても上限人数を設け、コロナ禍でも行えることを工夫しながら実施しました。四館合同事業の一環で、本町児童館でも子どもたち主体の子ども会議を行い、高学年グループの子どもたちと一般の参加者が入り交じり子どもスタッフとして活躍しました。

3 中・高校生世代に対する事業

中学生の利用者は、部活動が休みの平日や土曜日、さらに中間考査・期末考査前後になると来館しましたが、小学生の頃からよく通ってきていた子どもたちがほとんどでした。近隣の小金井第一中学校の男子バレー部ではボランティア活動にも力を入れていることで、頻繁に来館し子どもの遊び相手になってくれました。

時々顔を出し、児童館の様子を伺いに来る高校生世代もいました。館内の行事では、どの児童館でもボランティア数を制限していましたし、行事数も少なかったのですが、それでも声をかければ必ず誰かが引き受けてくれました。野外等で行った四館合同事業では、高校生や大人までのボランティアが本町児童館からも参加してくれました。また多くのボランティアが参加できる行事が実施できるまで、1人でも多くの中・高校世代の子どもたちと繋がっていきたいと思いました。

4 地域や関係機関との連携した取組

コロナ禍で中・高校生世代同様、地域のボランティアとの関係も制限がありました。大学生がサークル活動を思うように行えなかった時期も続いていましたが、令和3年度は、以前からお世話になっている東京学芸大学のダンスサークルの指導によるダンスレッスンは、講師参加者共に少人数で実施することができました。美術大学の学生にも同様のやり方で、イラスト教室で指導をお願いしました。

地域の大人のボランティアグループの中には、自主的に参加を控えたところもありました。そのため以前は様々な行事を手伝ってくれていたクッキング名人（調理グループ）やウクレレ隊（近隣幼稚園の保護者の音楽サークル）は、コロナ禍以降一度も実施できませんでした。食育等、今実施できない事業についてはいずれ実施出来るようになると思いますが、一旦途絶えたボランティア団体と、どのようにまたこれまでのように関係性を作っていくかの方が課題と考えます。

また半世紀もの間、大きな絵本作りや上演で活動し続けてくれた「ひまわり会」が、スタッフの高齢化ということもあり、正式に解散することになりました。本町児童館の歴史の中での大きな出来事でした。

本町小学校の学校運営連絡委員が時々児童館の様子を見に来てくれていました。また、民生・児童委員も同じようにコロナ禍での児童館を利用する子どもたちの様子を気に向け、様子をのぞきにきてくれたりしました。今後も子どもたちのために関係機関等とより良い関係を保つようにしていきます。

令和3年度 東児童館事業計画

小金井市児童館運営基本方針、児童館ガイドライン及び小金井市子どもの権利に関する条例に基づき、下記のとおり令和3年度の事業計画を策定します。また、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を最優先し、事業の実施については、それに対応していきます。

1 乳幼児と保護者に対する事業

(1) 常設子育てひろば

- ① 開館日の月曜日から土曜日の午前10時から午後4時まで、職員が常駐し、乳幼児とその保護者を対象とした居場所を設けます。
- ② 親子同士の交流をサポートし、地域および子育ての情報交換の場とします。
- ③ 乳幼児の発達に添った遊びや接し方を提案し、子育て中の保護者の話に傾聴するなど、親子に寄り添います。
- ④ 毎月、手遊びや誕生日会、おはなし会等を行います。
- ⑤ 食育、健康、趣味等の保護者対象の講座や相談会を実施します。
- ⑥ 近隣公園等での「出張ひろば」を実施します。
- ⑦ 子育て中の父親の交流と育児参加のきっかけの場となる行事を実施します。

- (2) 親子同士の交流を目的とし、保護者が主体的に運営する幼児グループを、2歳児グループを週2回、3歳児グループを週1回行います。
- (3) 幼児グループの参加者を対象に、子育てに関する講座を年2回実施します。
- (4) 幼稚園世代対象事業として、園の長期休みに施設開放や遊びの提供等を行います。
- (5) 幼稚園世代を対象に、地域のボランティアや自主グループによる行事を行います。

2 小学生に対する事業

- (1) 来館する一人一人を尊重し、積極的に関わり、信頼関係を築きます。
- (2) 1年生から3年生までを対象に、低学年グループを火曜日と金曜日に実施します。
- (3) 4年生から6年生までを対象に、高学年グループを水曜日に実施します。
- (4) 子どもたちが準備から実施まで関わる四館合同事業を、他の児童館と協力して実施します。
- (5) 行事の企画実施・指導に、地域のボランティアや自主グループの力を取り入れ、幅広い内容の活動を実施します。
- (6) 近隣の大学や地域団体との連携事業を実施します。
- (7) 夏休みの特別事業として夏期クラブを企画します。ボランティアの意見などを取り入れながら、5日間充実した内容で実施します。
- (8) 子どもの権利について、掲示板等を活用して子どもに分かりやすく周知を図ります。また、子どもの意見を可能な限り事業に反映させます。

3 中・高校生世代に対しての施策

- (1) 来館する一人一人と信頼関係を築き、意見や要望または相談に対応するように努めます。

- (2) 週1回（水曜日）午後8時まで開館し、中高校生タイム「ぶれいす HIGAJI」を実施し、中・高校生世代の居場所作りをします。
- (3) 中・高校生世代が多様な価値観を持ち、自ら企画、実施することで参画する立場へのステップアップを目指すよう「とびだせ！中高生」を実施します。
- (4) 中・高校生世代が自分たちで企画、実施する宿泊行事を行います。
- (5) 中・高校生世代が地域のボランティアリーダーとなるように育成を図ります。
- (6) 料理教室などの事業を中・高校生世代の意見を取り入れながら、実施します。
- (7) 講座等の実施には、地域のボランティアや専門家の協力を得ます。
- (8) 中・高校生世代と乳幼児ふれあい事業を、子育てひろばと連携し、保育の専門家の協力を得て実施します。
- (9) 四館合同行事での発表・製作に向けて、多くの参加を募り、その自主的な活動の場を提供します。

4 相談事業及び子どもの問題に対しての地域や関係機関との連携した取組

- (1) 配慮の必要な子どもについては、問題の解決に向けて支援していきます。また、職員だけでは対応が難しい場合には、状況に応じて保護者やボランティアの協力を得ます。
- (2) 保護者からの子育てに関する軽易な相談や子ども自身からの相談を受けます。深刻な相談については、適切な機関とつながるように配慮します。また、その後の支援に努めます。
- (3) 専門相談として、子育て相談（臨床心理士）、思春期相談（臨床心理士）を毎月1回（3枠）行います。
- (4) 近隣の学校・子ども家庭支援センター・児童発達支援センター・主任児童委員・青少年健全育成地区委員会等の関係機関とよりよい関係を作ります。また、虐待またはその疑いのあるケースについては、子ども家庭支援センターに通報し、必要に応じて連携します。
- (5) 子どもに関係する地域団体や自主グループを支援します。
- (6) 施設の運営や地域の子どもの問題、安全に対して、利用者など、地域や地域団体の意見を集約する機会として利用者懇談会を実施します。
- (7) 乳幼児から小学生までを対象に、食育を目的とした、市内の生産者との交流や、地域のボランティアの協力による環境に配慮した料理教室を実施します。
- (8) 児童館の利用者やボランティアグループ、地域の子どもの育成を担う方と東児童館運営会議を開催し、児童館事業の充実化を図ります。
- (9) ホームページ等を活用し、事業の広報を行います。

5 子どもや利用者の安全を守るための取組

- (1) 児童館緊急対応マニュアルを規範として、子どもや利用者の安全を図ります。
- (2) 館庭での火の取扱いや騒音には充分注意し、近隣住民の理解を得られるよう配慮します。
- (3) 学童保育所と合同での防災避難訓練を年3回実施します。また児童館のみの避難訓練を年3回実施します。

令和3年度 東児童館のこの1年

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響のため、8月に1日臨時休館がありましたが、感染状況に合わせて定員などの制限を徐々に緩和し、年度の後半には来館者も増え、児童館に少しずつ活気が戻ってきました。

1 乳幼児と保護者に対する事業（子育てひろば事業・幼児グループ）

子育てひろば「ばおばお」は、昨年度より利用者数が増えました。0歳児の利用が増え、「新型コロナウイルスが出始めてからずっと家で子どもと過ごしていて、初めて外に出ました。」という声も多く聞かれました。制限は緩和されましたが、消毒作業などは変わらず丁寧に行うことを心掛けました。行事では、「リズム遊び」「工作」などの定員も増やし、「名札講習会」では保育も再開しました。「ばおばおミニ講座」では保育園からの講師派遣が中止となったため、臨床心理士によるイヤイヤ期の対応についての講座やパパママ講座と称し、夫婦で子育てをしていく上での協力についての講座を行い、どちらも好評でした。

幼児グループは、3歳児グループは廃止し、2歳児以上対象に2グループで行いました。20組の定員を設け、どちらのグループも満員でした。昨年度同様、調理ができないなど制限はありましたが、10月には栗山公園で合同運動会を行うことができました。参加者も公園や庭での外遊びを増やすなど、制限がある中でも子どもたちがのびのび遊べる工夫をしていました。また、昨年度同様子どもたちが使用した遊具を活動後に保護者に消毒してもらいました。

幼稚園児世代対象事業「ちょこっと3・4・5・6」は、密を避けるために申込みを2部制にして行いました。例年よりは少ない人数でしたが、夏休みに行った回では多くの参加がありました。幼児グループで仲良くなった仲間同士で、幼稚園児の兄や姉を連れて参加する親子が多かったように感じます。

2 小学生に対する事業

低学年グループは、火曜日、金曜日のグループ共に定員を2つに分け、隔週で行い、高学年グループは少人数のため毎週行いました。参加者からは外遊びの要望が多く、コロナ禍で体を動かす機会が減っているのだと改めて感じました。またじゃがいも掘りやさつまいも掘りなども行いました。3月にはグループの集大成として「ちょこっとフェスタ」で店を出しました。

自由来館は4年、5年の利用が多く、やはり卓球やボール遊びで体を動かしていました。今年度は早くから1、2年生の利用もありました。あまりに来館人数が増えた時には、人数制限をし、早く来た子から帰ってもらったこともありましたが、徐々にそのようなこともなくなりました。子どもたちも互いにマスクについて注意し合ったり、密にならないよう部屋を変えたり、自分たちで工夫する姿も見られました。高学年の意見を採用し、11月から毎週土曜日に子どもたちのリクエスト曲を館内放送で流す時間を設けると、低学年も喜んでリクエストし、皆で盛り上がっていました。

夏の定例行事「夏期クラブ」は行うことができませんでしたが、代わりに3日間レジンでコースターを作る行事を行いました。

3 中・高校生世代に対する事業

毎週水曜日の夜間開館事業「ぷれいすH I G A J I」は、昨年度来ていたメンバーが受験生になったこともあり、序盤は中学生が数人参加するだけでした。後半になると受験を終えた子が戻ってきて少し人数が増えました。しかし新たに参加する子がほとんどおらず、調理など中高校生の希望のイベントができない中で、どのようにして参加人数を増やしていくのかが課題となっています。夜間開館利用から児童館の行事のボランティアになってくれる子がほとんどなので、今後イベントが完全な形で開催できるようになった際にボランティア不足にならないよう職員で策を考えていく必要があると感じました。

講座では卓球や書道の他に「ひがじハローワーク」を行い、落語家やシステムエンジニアの話を聞きました。

秋頃から将来子ども関係の職に就きたいという受験を終えた高校3年生から希望があり、小学生の遊び相手のボランティアをしてもらいました。すぐに人気になり、「次はいつ来るの？」と毎回小学生に聞かれていました。

「とびだせ！中高生」は2年ぶりに開催することができ、自転車でいちご狩りに出かけました。3月に行ったことで、受験を終えた中学校3年生が参加でき、いい思い出になったと喜ばれました。

4 専門相談事業

思春期相談、子育て相談を毎月各1回行いました。思春期相談は予約で埋まることも多かったのですが、子育て相談は年間で6件しか利用がありませんでした。予約の入っていない時間は臨床心理士が、自分の立場を公表した上で、子育てひろばで保護者と話をしていますが、まだ専門相談があることを知らない利用者もおり、本当に相談を必要としている人に情報を届けるために、今後どのように広報していくかが課題です。

5 地域や関係機関との連携した取組

NPO 法人こがねい環境ネットワークに協力してもらい、小学生や中高校生対象に藍の葉でのたたき染めや組手仕のイベントを行いました。また「マンガイラスト教室」では東京学芸大学の学生が講師として戻ってきてくれました。地域ボランティアの協力により新たにできたこともありましたが、活動を自粛している自主グループもあり、そのような方たちとの関係作りが難しく感じています。

コロナ禍の子どもたちを心配し、主任児童委員が様子を見に来館することもありました。また子ども家庭支援センターの職員が児童と共に来館し、遊んでいくこともあり、児童館での様子などの情報提供を行いました。それとは別に子どもからの相談を受け、児童相談所や子ども家庭支援センターに通告し、連携したケースもありました。

令和3年度 貫井南児童館事業計画

小金井市児童館運営基本方針、児童館ガイドライン及び小金井市子どもの権利に関する条例に基づき、以下のとおり令和3年度事業計画を策定します。また、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を最優先し、事業の実施については、それに対応していきます。

1 乳幼児と保護者に対する事業

- (1) ボランティア等の協力を得ながら、地域の乳幼児と保護者が交流を図るため、「子育てひろば事業」を実施します。
- (2) 「乳幼児のつどい」は、遊戯室を月曜日、木曜日、金曜日の午前10時から午後1時30分までのフリースペースとします。月・金曜日は「0～2歳児」、木曜日は「0歳児」と曜日ごとに年齢別の交流会を実施します。
- (3) 子育てひろばでは、食育・健康・読書活動等、子育てや子どもに関する相談会や講習会を、保護者の意見を取り入れ、ボランティアや関係機関の協力を得ながら実施します。
- (4) 父親の子育て参加を支援するための事業を年10回土曜日に実施します。
- (5) 親子での交流を目的とした、保護者が主体的に運営する幼児グループを2歳児以上として週2回行います。
- (6) 3歳から6歳児(幼稚園次世代)対象の遊戯室の自由開放の日を設けます。

2 小学生に対する事業

- (1) 自由来館児の一人一人に対して積極的に関わり、信頼関係を築きます。
- (2) 低学年グループ(小学校1年生～3年生)を、火曜日に週1回実施します。
- (3) 高学年グループ(小学校4年生～6年生)を、水曜日に週1回実施します。
- (4) 低学年グループに入っていない小学校1年生～3年生を対象に、月1回程度行事を行います。
- (5) 子どもに関わっている自主的グループを支援し、行事の企画実施・指導に地域のボランティアの力を取り入れ、幅広い内容の活動を実施します。公民館併設の利点を活かし、高齢者や地域サークルに協力を仰ぎ、様々な行事を実施します。
- (6) 子どもたちが準備から実施まで関わる四館合同事業を、他の児童館と協力して実施します。
- (7) 夏休みの特別事業として、「夏期クラブ」をボランティアの意見を取り入れ企画実施します。
- (8) 自由来館の子どもたちの意見を活かした「子ども作戦会議」を実施します。また、掲示板等子どもたちからの意見も事業に反映させます。

3 中・高校生世代に対しての施策

- (1) 来館する一人一人と信頼関係を構築し、意見や要望に耳を傾けるように努めます。
- (2) 中・高校生世代のための夜間開館事業「スペース@ヌクイ」を、毎週金曜

日午後4時から午後8時までに行い、居場所作りを中心とした活動を行います。

- (3) 中・高校生世代のボランティアを積極的に受け入れます。
- (4) 中・高校生世代の意見や要望を反映させて、行事や講座等の事業につなげていきます。
- (5) バンドスタジオを中・高校生世代の音楽活動の場として開放します。市内の高校生への広報を工夫していきます。
- (6) 音楽活動、ダンス等での利用の促進、さらに同様の目的で自主的に活動するグループを支援し、その発表の機会を作ります。

4 相談事業及び子どもの問題に対しての地域や関係機関との連携した取組

- (1) 配慮の必要な子どもについては、問題の解決に向けて支援していきます。また、職員だけの対応が難しい場合には、保護者やボランティアの協力を得ます。
- (2) 保護者からの子育てに関する軽易な相談や子ども自身からの相談を受けます。深刻な相談については、その後適切な機関とつながるように配慮します。また、その後の支援に努めます。
- (3) 近隣の学校・子ども家庭支援センター・児童発達支援センター・主任児童委員・青少年健全育成地区委員会等の関係機関とよりよい関係を作ります。また、虐待またはその疑いのあるケースについては、子ども家庭支援センターに通報し、必要に応じて連携します。
- (4) 利用者懇談会を実施し、施設の運営や地域の子どもの問題、安全に対して、利用者はもとより、近隣や地域組織からも意見をいただく機会を設けます。
- (5) 子ども会等子どものために活動する地域の大人の組織に対して協力・連携をし、その活動の場の提供を行います。また、併設の公民館とも連携して事業を行っていきます。
- (6) 食育について、地域のボランティアや市内の生産者の協力を得て、乳幼児の保護者や小学生以上の子どもたちに対して、環境や食材の知識を得られる講座や行事を実施します。

5 子どもや利用者の安全を守るための取組

- (1) 館庭での火の取扱いや騒音には十分な注意をし、近隣の住民から理解を得られるよう努めます。
- (2) 防災及び不審者対策とした訓練について、地域組織と合同も含め小学生以上を対象に3回、乳幼児を対象として館独自で3回、年計6回実施します。
- (3) 児童館施設安全管理及び緊急対応マニュアルを規範として、子どもたちの安全を図ります。

令和3年度 貫井南児童館のこの一年

令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、子どもたちのためにできることを模索した1年でした。また2月には児童館が水道工事により1カ月閉館したため、地域の集会施設や公園を借用してできる行事やグループ活動を行いました。それぞれ利用はあったのですが、やはり児童館が3月に再開したときには「居場所がなくて困った」という声を聞きました。

昨年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できない行事も多くなりましたが、前年度と比較すると少しずつ増やすことができました。来館する子どもたちも増え、特に中学生が多かったことが特徴でした。

1 乳幼児と保護者に対する事業（子育てひろば事業・幼児グループ）

子育てひろばは、前年度0歳児の利用が少なかったため、年度が変わったことで今年度は1歳児の利用が少ない傾向にありました。毎年一定数の1歳児の親子が数組のグループになり、そのまま翌年の幼児グループに参加するという流れがありましたが、今年度は幼児グループにつながる親子たちの輪ができませんでした。

一方0歳児については、年齢別交流会を開催したり、保護者同士の交流を盛んに行ってきたことで、顔なじみの親子が来るようになりました。ほぼ毎回来る親子もいました。しかし、ほとんどの親子は育児休業中で1歳児になると保育所に通う予定の親子でした。

幼児グループは、今年度は火・水曜日の2グループで実施しました。昨年度ひろばに来ていた親子たちが中心にグループ活動に参加しました。プレ幼稚園に参加している親子が大半でしたが、プレ幼稚園の活動のない日に乳幼児のひろばに参加する幼児グループの親子が多くいました。

2 小学生に対する事業

自由来館の子どもについては、前年度小学校4年生が多かったため、今年度前半は小学校5年生が多く来ていました。集団で遊びに来て、ボードゲームをしたり、カードゲームをしたり、職員やボランティアを交えて庭で鬼ごっこをしたりしていました。また密になることを警戒して、近くの公園が混んでいると児童館に来たり、また公園に戻ったり、野川に行ったりなどしている子どもたちもいました。

夏休みは、夏期クラブは今年度も実施できませんでしたが、「高速夏期クラブ」という名称で、小学生を普段より多めに集めての工作だけの行事を実施しました。低学年の作業を高学年が手伝ったり、高校生が指導したりしたので、夏期クラブの雰囲気を出すことができました。夏休みは未だ外出を控える家庭も多かったので、少しでも子どもたちのためのイベントが実施できたことは良かったです。また夏休み中に児童館四館合同行事のウォークラリーで、児童館から遠い地域の子どもたちが児童館に遊びに来てくれました。

3月には児童館で小学生グループなどが出店する縁日形式の祭りを行いました。子どもたちからは食べ物の出店がやりたいという意見が出ましたが実施できず、ゲームなどをそれぞれのグループで考えて出店しました。参加者は小学生限定で申込制で行ったので出店の子どもたちも時間や空間に余裕ができました。子どもたちの良い交流の場になりました。

低学年グループは、3年生は2学期になると6時間授業が始まり、あまり来られなくなってしまい1、2年生中心の活動でした。高校生のボランティアが良く手伝ってくれました。また子ども会議では、高学年グループが中心となって体育館で行った最終決戦のクイズを考えたりしました。

3 中・高校生世代に対する事業

自由来館は中学校1、2年生の利用が多く、それ以外の中学校3年生から高校生までの利用は少ない状況でした。中学校1、2年生は例年であれば4、5月を除くと部活に入る子どもたちは忙しくなり来館が減るのですが、今年度もコロナ禍のため部活が中止、または休みの日が多く、部活の友達同士で来ることが多くありました。中学生の常連の中から、2月の移動児童館の逃走中のイベントにボランティアとして参加してくれた子どももいました。日常の中でも、中学生がボランティアの機会を持てるよう、外遊びや行事の準備などに誘って手伝ってもらうよう心掛けました。今年度も常連の高校生たちが四館合同行事などの小学生の行事等でボランティアをしてくれました。

スタジオの利用は当初2人まで利用できるようにしていましたが、室内の換気の回数を増やし、アクリル板で衝立を作るなどして、1月から4人まで利用人数を増やしました。利用したことのあるバンドに、人数を増やしたことを知らせましたが、結果4人で利用することはありませんでした。利用者数全体を見ると、前年度に比べ微増でしたが、高校生の利用は個人、グループどちらもほとんどなく、主に中学生が1人でドラム練習をしたり、ボーカル練習をすることが多くありました。コロナ禍で高校生のバンド活動も思うようにいっていないようでした。3月にはバンドスクールと児童館ライブを計画しましたが、出演者が集まらず、やむなく中止したことは残念でした。

夜間開館では、中・高校世代対象の行事として、地域の専門家の方たちに依頼して、陶芸や工芸などを行いました。常連は高校2年生が多く、その中にはまだ将来像を描けていない子どももいたので、後半は、将来の職業について考える機会を意識して講座を実施しました。音楽やフラワーアレンジメントといった様々な仕事に就いている方に、中・高校生世代の時期から現在の仕事に就くまでの経緯や仕事についての考え方等を講師の方々に語ってもらう機会を設けました。また行事によって新規の中学生が夜間開館に参加するきっかけとなりました。

4 地域や関係機関との連携した取組

昨年度よりも地域のボランティアなどに関わりが持てるような事業が出来ました。「ミニゴーストハンティング」という地域オリエンテーリングでは地域の人たちにゲームを担当してもらったり、乳幼児から中・高校生世代までの様々な行事では、少人数ながらボランティアを受け入れて実施できたことは大きかったと思います。

令和3年度 緑児童館事業計画

小金井市児童館運営基本方針、児童館ガイドライン及び小金井市子どもの権利に関する条例に基づき、以下のとおり令和3年度事業計画を策定します。また、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を最優先し、事業の実施については、それに対応していきます。

1 乳幼児と保護者に対する事業

- (1) 地域の乳幼児と保護者の居場所作りを中心とした「子育てひろば事業」を、以下のとおり実施します。なお、子育てひろば事業の事業名は「ほのぼのサロン」とします。
 - ① 活動室のフリースペース化
学校休業日以外の毎週月曜日から土曜日までの午前10時から午後3時まで（土曜日は午後1時まで）、乳幼児と保護者の優先室とします。また、昨年度日常的に父親や家族そろっての参加が増えたことにも配慮します。
 - ② ひよこ（0歳児）
毎週木曜日に行く、0歳児と保護者の交流の場です。
 - ③ あそぼうよ（1歳児以上）
1歳児以上の交流会として、毎週水曜日に実施します。
- (2) 「地域の子育てをつなげていく」ことを掲げ、児童館で活動していた「先輩ママ」に、子育てひろば事業での講師・保育者・相談者として協力してもらいます。また、多くの子育て中の保護者が交流できるイベントも企画します。
- (3) 子育てひろばでは、食育・健康・図書・生活等、子育てや子どもに関する相談会、講習会を、保護者の意見を取り入れ、ボランティアや関係機関の協力を得ながら実施します。
- (4) 親子での交流を目的とした、保護者が主体的に運営する幼児グループを、2歳児以上として週2回行います。
- (5) 幼稚園世代の居場所作り及び保護者の交流のための事業を行います。
- (6) 保護者の子どものための自主活動を支援します。

2 小学生に対する事業

- (1) 自由来館の児童の一人一人に対して積極的に関わり、信頼関係を築きます。
- (2) 1年生から3年生までの低学年グループを、毎週火曜日の「火曜クラブ」と金曜日の「金曜クラブ」に分け、それぞれ実施します。
- (3) 4年生以上の高学年グループを、毎週水曜日に実施します。小学生の多様な趣味趣向に合わせていくために、彼らの意見を取り入れながら行います。
- (4) 行事の企画実施・指導に地域のボランティアの力を取り入れ、幅広い内容の活動を実施します。また、子どもたちの自主的な活動に対しても支援を行います。
- (5) 子どもたちが準備から実施まで関わる四館合同事業を、他の児童館と協力して実施します。
- (6) 子どもたちのアクティブな冒険心をかきたてる野外事業を行います。
- (7) 夏休みの特別事業として、夏期クラブをボランティアの意見を取り入れて、5日間の充実した内容を企画実施します。
- (8) 掲示板等も活用し、子どもたちの意見を行事に取り入れます。また、作画や創作など子どもたちが自由に行うことをサポートします。

3 中・高校生世代に対しての施策

- (1) 来館する一人一人と信頼関係を構築し、意見や要望に耳を傾けるように努めます。また、相談にも対応できるようにします。
- (2) 中・高校生世代のボランティアの受入れを積極的に行います。特に夏期クラブでは事前の企画から参加を募ります。
- (3) 活動室を中・高校生世代の優先的な居場所とし、ゆとりある空間を提供します。
- (4) 活動室は、乳幼児と保護者が利用することから、中・高校生世代と乳幼児との交流事業を夏休みに実施します。
- (5) 中・高校生世代の意見や要望には、ボランティア等の協力を得ながら事業につなげます。また自主的な活動の場を提供します。

4 相談事業及び子どもの問題に対しての地域や関係機関との連携した取組

- (1) 配慮の必要な子どもについては、問題の解決に向けて支援していきます。また、職員だけでの対応が難しい場合には、状況に応じて保護者やボランティアの協力を得ます。
- (2) 保護者からの子育てに関する軽易な相談や子ども自身からの相談を受けます。深刻な相談については、その後適切な機関とつながるように配慮します。また、その後の支援に努めます。
- (3) 地域の子育てや子どもたちに関わる人たちの拠点となり、様々な自主サークル（グループ）が交流も出来るような施設とし、そのための行事も行います。
- (4) 地域の大学生・青年ボランティアと子どもとの関わりを深めます。
- (5) 近隣の学校・子ども家庭支援センター・児童発達支援センター・主任児童委員・青少年健全育成地区委員会等の関係機関とよりよい関係を作ります。また、虐待またはその疑いのあるケースについては、子ども家庭支援センターに通報し、必要に応じて連携します。
- (6) 利用者懇談会を実施し、施設の運営や地域の子どもの問題、安全に対して、利用者だけでなくPTAや放課後子ども教室、子供会等、地域の子どものに係わる組織の人たちとも情報交換を行い、事業の連携や、互いの行事の日程調整等、地域との連携をとる場ともしていきます。
- (7) 子供会等、子どものために活動する地域の大人の組織に対し協力・連携をし、その活動の場の提供を行います。
- (8) 食育について、地域のボランティアや市内の生産者の協力を得て、乳幼児保護者対象には「家庭の食事を大切にしよう」をスローガンに、講座・イベント等を実施し、小学生対象には、環境や食材の知識を学べる事業を実施します。

5 子どもや利用者の安全を守るための取組

- (1) 館庭での火の取扱いや騒音には十分な注意をし、近隣の住民の方々に理解を得られるように配慮します。
- (2) 優良防火対象物認定施設として、防災への意識を高め、施設の整備には万全を期します。
- (3) 防災及び不審者対策とした訓練について、学童保育所と合同で3回、乳幼児を対象として館独自で3回、年計6回実施します。
- (4) 児童館施設安全管理及び緊急対応マニュアルを規範として、子どもたちの安全を図ります。

令和3年度 緑児童館のこの一年

所謂コロナ禍のため、様々な感染対策と事業を縮小しながら過ごした令和2年度は、自由来館の子どもたちの受け入れが事業の中心となりました。度重なる緊急事態宣言等の措置のため、比較的豊富にあった、地域の子どもたちを受け入れる「場」が減ったことで、それまで児童館に来なかった子どもたちが、1人で又は友達同士で来館したことが目立ちました。ですが、コロナ禍2年目に入った令和3年度は、基本的な感染対策や施設運営の考え方は前年度と変わらなかったのですが、年間を通して「常連」の子どもたちの居場所、言い換えると、特定の子どもたちが毎日来る場所になったと言えます。特に緊急事態宣言が解除された秋以降は、近隣の小学校の放課後事業が再開されたり、公園の遊具が自由に使えるようになったこともあり、他に遊び場や活動場所を移した子どもたちも多くいたようです。そうしたことにより結果的に「児童館が一番居心地良い」と言わんばかりに毎日来る子どもたちばかりになった感があります。

1 乳幼児と保護者に対する事業（子育てひろば事業・幼児グループ）

令和3年度は、前年度に比べて、年間を通して利用者数が大きく減りました。子どもの年代で見ると、以前から0歳児が多く、保育園入園が増える2歳児と保護者は少ない傾向は以前からありましたが、令和2年度は比較的幅広い子どもの年代の利用がありました。そのため、保護者（特に母親）がコロナ禍の影響で控えていた就業を、今年度に入り始めだしたことが影響しているのではと考えました。一方で父親の来館は今年度も多く見られ、特に土曜日は夫婦そろっての来館も多くありました。

また、前年度よりも少しずつ、季節行事や講習会を増やしていきましたが、そちらは参加が多くありました。中々日常的に気軽に参加できる、この世代の子どもたち対象のイベントが、現在も身近なところに少ないのかもしれませんが。

年々その参加者数が減ってきていた2歳児以上の幼児グループですが、申込率が上がることはありませんでした。コロナ禍でできないことも多いとはいえ、参加した保護者からは「楽しかった」という声が多く聞かれましたが、保育園の入園や幼稚園のプレ入園の波には抗えないようです。

2 小学生に対する事業

冒頭で書いたように、常連の子どもたちで賑わう毎日、というよりも、毎日欠かさず遊びに来る子どもたちが多くいました。その中の数人の子どもたちは、男女混成で学年も違いましたが、児童館で仲良くなり、時にはけんかをしながらも毎日申し合わせたように、揃って遊びに来ました。土曜日に家族で外出を計画しても、「児童館に行く」と言って朝から出かけてしまうと、苦笑して話してくれた保護者もいました。日常的に子どもたちが流行らせているのは、鬼ごっこやドッチボールやドッチビー、そして自分たちで持ってきたゲームと、ほぼ毎日同じことをやっているの、職員も「よく毎日来て飽きないね」と不思議に思うくらいでした。

また、特に2学期の途中くらいまでは水曜日になると、6年生のあるクラスがほぼ全員集まって遊んでいました。学校で声を掛け合って集合していたようです。水曜日は全体的に自由来館が多いので、時間を決めて部屋の使用時間を分ける等、遊びの交通整理が大変でした。

秋以降は近隣の緑小学校で、地域のボランティアによる放課後子ども事業がほぼ毎日行われるようになり、その影響で来館者数も減っていきました。ですが減ったのは予想していた低学年の子どもたちではなく、5, 6年生だったのは意外でした。年間通して2年生から4年生が多く、午後5時以降の開館延長時間には対象の子どもたち（4年生以上）がほとんどいなくなることも珍しくありませんでした。

低学年グループは前年度と同様に1つの曜日の活動を半分の人数に分け、それぞれ隔週で行いました。コロナ禍を気にして、保護者の判断で途中来なくなった子どもたちもいましたが、概ね出席率もよく、毎回賑やかに活動しました。一方高学年グループは4年生の女子ばかりになりました。日常的にも4年生が多いことが反映されたようでした。

3 中・高校生世代に対する事業

前年度に引き続き、中・高校生の来館はとて少なかったです。夏期クラブ等、中学生以上がボランティアをできる事業が少なかったことや、クラブ活動が平常にできるようになったこともあるかもしれませんが、特に中学生は来館しない日が何日も続くこともありました。

前年度から毎日学校帰りに寄っていた高校2年生の男子が、同様に毎日のように遊びに来ました。来ると職員相手にゲームをしたり、小学生の遊び相手もしてくれました。将来は児童館職員になることが夢だということです。

緑中学校が目の前にあるので、毎日のように入れ替わりで、窓越しに顔を出してくれる中学生は多いのですが、学校帰りなので、そのまま上がらずに帰ってしまいます。なかなか一度帰ってから遊びに来る子はいなかったのが現状です。

4 地域や関係機関との連携した取組

近隣の緑小学校が市内の公立校でいち早く、コミュニティスクールの指定校になりました。活動のネットワークの中に児童館は組織としてかかわっていませんが、その活動趣旨に、放課後の遊びや地域連携が入っているので、児童館としては何らかのかかわりを持つ必要があっても良いと考えます。

コミュニティスクールの委員である地域コーディネーターの代表に、こちらの思いを話したら共感を得ることができ、その後児童館の利用者懇談会にも来てもらい、今後どうかかわっていくのが良いかを話し合いました。

一方コロナ禍で児童館での活動を休止したまま、解散したグループがいくつもありました。これについては、とても残念に思いますが、今後また新しいグループが児童館で生み出されていくことについては、現状ではとても難しいと考えています。

幼児グループの活動の参加者数の減少が、保護者（母親）の就業率の上昇と大きく関係しているといっても過言ではありませんが、世の中の動きを考えた意味自然の流れかもしれません。よって、これまで幼児グループでの保護者の仲間作りを出発点とした自主活動を支援した結果、地域のボランティア力を生み出すことにもつながりましたが、そうしたことが難しくなりました。よって、中で生み出されたボランティア力を多くの事業に活かしてきたことで、事業の骨格を根底から見直すなくてはなりません。

今後はもっと外を見渡し、コミュニティスクールなど、地域で活動する団体と連携し、事業に結び付けていくことも考えなくてはならないと強く気づかされました。

— 児童館のたより紹介 —

8月のじどうかん

本児童館では夏休みには夏休期間ダイヤルを設け、活動などの情報を発信いたします。
 申込方法(177)はダイヤル「2」をダイヤル「042-383-1170」をダイヤルして検索可能です。

8月の児童館の行事および利用については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止または変更になる可能性があります。詳しくは最新版をご覧ください。
 ※最新情報についてはホームページを更新してまいりますので、ご確認ください。

本児童館のご案内 ■〒104 東京都中央区本町1-4-20 ■電話番号 042-383-1170
 ■受付時間 午前9時から午後5時
 ■休館日 毎週日曜日、9日(月・祝日)、31日(火・祝日)

8月のじどうかん イベント

真夏の夜の肝試し

〜キク・ガイツのYOASOBI〜

真夏の夜の肝試しイベント「おどろけ、肝試し、キク・ガイツ」
 このイベントは、真夏の夜の肝試しイベント「おどろけ、肝試し、キク・ガイツ」
 このイベントは、真夏の夜の肝試しイベント「おどろけ、肝試し、キク・ガイツ」

アート・クラフトスクール

「小瓶とビーズでペンダント作り」
 8月7日(土)午後2時から4時まで
 小瓶とビーズでペンダントを作ろう！
 ■対象 小学生 10名
 ■参加費 100円

児童館探検きョークラリー〜キク・ガイツの迷宮〜

8月のイベントの案内があるよ！チェックだぞ！

2021 東じどうかんたより

児童発生時には
 ※本児童館では夏休期間ダイヤルを設け、活動などの情報を発信いたします。
 ※申込方法(177)はダイヤル「2」をダイヤル「042-383-1170」をダイヤルして検索可能です。

4日(水)〜6日(金) レジンでキラキラコスター作り
 ごぜん10時〜11時30分

3日(火) ごぜん10時〜11時30分
 夏の葉っぱでたきまめエコバッグ作り

月	火	水	木	金	土	日
2	3	4	5	6	7	
9	10	11	12	13	14	
16	17	18	19	20	21	
23	24	25	26	27	28	
30	31					

このところ、忘れ物や遅い子どもが増えてきています。特に夏休みはカバンなどに入れてお持ち帰りできるように、ご家庭でも準備をお願いします。
 また、持ち帰り品は、ゲーム機、ゲームソフト、紙、種籽などは、必ず返却するようにご協力ください。

東児童館ホームページ higaji.xyz

7月のじどうかん

本児童館では夏休みには夏休期間ダイヤルを設け、活動などの情報を発信いたします。
 申込方法(177)はダイヤル「2」をダイヤル「042-383-1170」をダイヤルして検索可能です。

7月の児童館の行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止または変更になる可能性があります。詳しくは最新版をご覧ください。
 ※最新情報についてはホームページを更新してまいりますので、ご確認ください。

本児童館のご案内 ■〒104 東京都中央区本町1-4-20 ■電話番号 042-383-1170
 ■受付時間 午前9時から午後5時
 ■休館日 毎週日曜日、22日(水・祝日)、23日(金・祝日)、31日(土・祝日)

7月のじどうかん イベント

超高速・夏期クラス

木材を使ってコリントゲームを作ろう！10人ずつの縦割りグループで作業をするよ！
 ① 7月27日(火) 午前10時〜正午
 ② 7月28日(水) 午前10時〜正午
 定員：①と②ともに小学生1年生〜3年生10名、小学校4年生〜6年生10名
 参加費：500円(材料費)

ナオセルマン博士のおもちゃ病院

7月21日(水) 午前10時から午後1時まで
 修理費100円(材料費) 修理費100円(材料費)

高志郎ウキッス

7月6日(火) 13日(火) 午後1時30分〜午後3時
 高志郎ウキッス
 高志郎ウキッス
 高志郎ウキッス

ナオセルマン博士のおもちゃ病院

7月21日(水) 午前10時から午後1時まで
 修理費100円(材料費) 修理費100円(材料費)

7月のみどろじどうかんのイベントは盛りだくさん!

7月の児童館の行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止または変更になる可能性があります。詳しくは最新版をご覧ください。
 ※最新情報についてはホームページを更新してまいりますので、ご確認ください。

本児童館のご案内 ■〒104 東京都中央区本町1-4-20 ■電話番号 042-383-1170
 ■受付時間 午前9時から午後5時
 ■休館日 毎週日曜日、22日(水・祝日)、23日(金・祝日)、31日(土・祝日)

7月のみどろじどうかん イベント

ナオセルマン博士のおもちゃ病院

7月12日(月) 午前10時から午後1時まで
 修理費100円(材料費) 修理費100円(材料費)

キク・ガイツの迷宮

7月12日(月) 午後2時から4時まで
 キク・ガイツの迷宮
 キク・ガイツの迷宮

夏休み2週間クラス 望遠鏡作りと天体観測会

8月1日(日) 午後2時から4時まで
 望遠鏡作りと天体観測会
 望遠鏡作りと天体観測会

グリーンセンターの手作り江豚

7月12日(月) 午後3時30分から午後4時30分まで
 グリーンセンターの手作り江豚
 グリーンセンターの手作り江豚

あつまれみどろじどうかん

7月28日(水) 午前10時から午後11時30分まで
 あつまれみどろじどうかん
 あつまれみどろじどうかん

各児童館の小学生向けたより

Ⅲ 主な日常活動



幼児グループ 演奏会
(本町児童館)



中高生世代行事 書道に挑戦
(東児童館)



高学年グループ
(貫井南児童館)



低学年グループ
(緑児童館)

1 乳幼児と保護者に対する事業

乳幼児と保護者に対する事業には、主に0歳から2歳くらいまでの乳幼児と保護者の居場所と仲間作りを中心とした「子育てひろば事業」と、2歳児以上の、主に幼稚園に入園する前までの子どもたちの集団遊びと保護者の仲間作りを目的とした「幼児グループ」活動の2つがあります。「子育て支援」の取組として、児童館事業全体の中でも重要な事業の1つとなっています。

(1) 子育てひろば事業

子育てひろば事業では、利用する保護者の多くが育児休業中であることから、子どもの年齢が0歳児から1歳児が多く、1歳児から2歳児以上は減ってきたという傾向は以前からありました。令和2年度はコロナ禍となり、保育園入園を遅らせたりしたという話が多くの利用者から聞かれましたが、そのことで1歳児以上の子どもたちの来館も少し増えていたようにも思います。ですが、結果的には令和3年度はまた0歳児が多く、1歳児から2歳児は減少傾向にありました。

子育てひろばの事業内容は、基本は親子の居場所と仲間作りの場の提供です。さらに、子育て情報の提供、相談会や講習会の実施、さらに季節ごとまたは定期的なイベントの実施があります。

「コロナ禍1年目」となった令和2年度は、事業の基本となる「場」の提供を最優先し、その他の多くの事業を中止又は縮小し、さらに密を回避する理由から、一度の入室数を制限したりもしました。そうした感染対策を引き継いだ令和3年度は、緊急事態宣言が解除された秋口からの年度の後半になってから、国で示されたイベントの人数が緩和されたこともあり、少しずつ一度の利用人数を増やし、できなかった事業を再開していくことができました。「交流」という意味では欠かせなかった「飲食」をとまなうものを事業で行うことは、まだまだ先になりそうですが、それでも世の中が少しずつ日常を取り戻していく中、数ある児童館事業の中でも子育てひろば事業は、もっとも「現状回復」に近づけている事業です。

前年度同様に特徴として、父親の参加が増えていることがあげられます。職種にもよると思いますが、「在宅勤務」の定着化も理由の一つかも知れません。

児童館としては、子育てひろばから幼児グループへと地域の中で子育てを継続してもらいたいという思いもありますが、保育園への入園もあるので、そこにつながっていくことが少なくなっているのは、致し方がないことですが大変残念にも思います。



リズム遊び
(本町児童館)

子育てひろば事業

児童館名	事業名称	実施日	回数	登録 児童数	延べ参加親子数
本町児童館	乳幼児のつどい	月・水・木 ・土	121回	340人	4,062人
東児童館	常設子育てひろば 「ばおばお」	毎週月～土	279回	359人	8,303人
貫井南児童館	乳幼児のつどい	月・木・ 金・土	114回	187人	1,880人
緑児童館	ほのぼのサロン・ひよこ・ あそぼうよ	毎週月～土	246回	321人	4,949人
合 計			760回	1,207人	19,194人

乳幼児講座・おはなし会・子育て相談会等

児童館名	回数	延べ参加 親子数	主な内容
本町児童館	43回	1,133人	ベビータッチセラピー、離乳食講座、幼児食講座、リトミック体験講座、ブックスタート講座、ベビーマッサージ体験講座、七夕のつどい、クリスマス会ミニ、ミーツ・ザ・サンタクロース、節分のつどい、ひなまつりのつどい、パパと遊ぼう、誕生日会
東児童館	71回	1,087人	ばおばおミニ講座、離乳食講座、名札講習会、誕生日会、手遊び、工作、おはなし会、おとうさんもいっしょ、クリスマス会、りさいくる、リズム遊び
貫井南児童館	32回	380人	寝相アート、離乳食相談会、親子ヨガ、サンタさんと写真を撮ろう、月齢別交流会、誕生日会、幼児グループ活動紹介、節分ごっこ
緑児童館	59回	1,843人	離乳食講習会、食育相談会、健康相談会、応急救命講習会、誕生日会、インスタ映えの日、アイテム交換会、お話し会、
合 計	205回	4,443人	

(2) 幼児グループ

幼児グループは、子どもが2歳を過ぎる頃に必要となる、集団での遊びの慣らしを援助しつつ保護者同士の子育ての輪を広げるための活動です。

小金井市に限らず、現在の児童館での未就学児と保護者のための事業の中心は、主に0歳から1歳児以上を対象とした子育てひろば事業ですが、今から約15年くらい前までは、所謂「親子の地域デビュー」や「子どもの集団体験」といった趣旨のもとで、その事業の中心に据えてきました。

ですが、母親の就業の増加による保育園への入園増の影響、さらにコロナ禍の影響もあり、年々顕著になってきた参加者数の減少傾向に拍車がかかった感があります。1グループの人数は少なくなったなりに、交流しやすいという意見もありましたが、減り続けたことで、参加者組数が一桁になっているところもあり、グループ活動と呼ぶには、少し寂しい人数になっています。

活動の運営は保護者主導で、親子で遊ぶだけでなく、工作や季節のイベントは前年と比べてできることは増えましたが、調理や食べることなどは未だ禁止としていたので、終わってから昼食を皆で食べながら交流する、といったこれまで幼児グループが楽しくなる定番なことはできず、毎回1時間半くらいみんなで遊んで帰る繰り返しでした。これも参加者が変えている要因の一つとかも知れません。

いずれにせよ、今後は人数だけでなく、1館のグループ数自体が減ることも避けられない状況と思われます。

幼児グループ一覧

児童館名	グループ名	対象	活動日	登録 児童数	年間 活動数	延べ参加 親子数
本町児童館	アンパンマン	2・3歳児	火曜日	11人	31回	614人
	ミッキー	2・3歳児	金曜日	14人	31回	622人
	計			25人	62回	1,236人
東児童館	ぱんだ	2歳児	木曜日	21人	30回	949人
	おにぎり	2歳児	金曜日	20人	31回	920人
	計			41人	61回	1,869人
貫井南児童館	イチゴバナナ	2・3歳児	火曜日	11人	31回	498人
	しゃぼん玉	2・3歳児	水曜日	8人	32回	400人
	計			19人	63回	898人
緑児童館	ぶどう	2・3歳児	火曜日	18人	31回	661人
	ジャンプ	2・3歳児	金曜日	9人	31回	296人
	計			27人	62回	957人
合 計				112人	248回	4,960人

2 小学生の活動

コロナ禍になって2年目に入りましたが、特に年度の前半は緊急事態宣言等、行動制限の要請期間が、断続的に続いていたことで、小学校単位で行っているサッカーチームの練習や放課後子ども事業等の地域の活動ができないこともあり、児童館が地域の貴重な遊び場になっていました。地域の様々な活動が再開されてからは、日々の来館者数も多少減少しましたが、常連の子どもたちを中心に毎日小学生の元気な姿が見られました。

どの児童館も新型コロナウイルスの感染対策については、検温、消毒、各部屋の収容人数の制限、遊び方の工夫と、変わらず苦慮しながらの毎日でした。前年度に比べると、走りまわったり、大声を出したりして職員にたしなめられる子は相変わらずいましたが、反面、マスクはほとんどの子どもたちが着用しているし、来館すると自分たちから検温をせがむなど、様々な面で、子どもたちも「コロナ慣れ」してきているのではと感じました。ですが、感染で言えば、子ども自身の感染は、前年度の比ではなく広がりを見せたので、かなり気にしながらの対応であったことも事実です。一方で児童館で感染するのではと、遊びに行かせたり、週1回のグループ活動に通わせたりするのを躊躇された保護者も増えたようでした。

子どもたちに人気のある調理を用いた行事、夏期クラブやわんぱく団といった夏休みのイベントなど、令和3年度も多く行事ができなかったことは職員側としても非常に残念です。それでも食べたり調理したりは難しいですが、工作や運動系ではできることも増えていきますし、イベントと呼べるような大きな行事では多くの申し込みがあるなど、児童館への期待は以前より高まっているように感じます。

早く様々なことがこれまで通りにできるように願うばかりですが、変わらぬ子どもたちの活気と笑顔は消えることがないようにしたいと思います。



レジン工作（東児童館）



プラレール遊び（緑児童館）

2 小学生の活動

(1) 開館時間延長時の利用者数

学校休業日を除く平日は、小学校4年生以上の児童に対して、開館時間を午後5時30分まで（東児童館は午後6時まで）延長しています。

児童館名	日数	小学生	中・高校生	合計人数
本町児童館	195日	2,265人	264人	2,529人
東児童館※	279日	3,740人	471人	4,211人
貫井南児童館	261日	2,064人	1,840人	3,904人
緑児童館	280日	1,726人	423人	2,149人
合計	1,015日	9,795人	2,998人	12,793人

(2) 小学生グループ

児童館名	グループ名	対象	活動日	登録児童数	年間活動回数	延べ参加者数
本町児童館	低学年火曜日	1～3年生	火曜日	19人	32回	271人
	低学年金曜日	1～3年生	金曜日	23人	34回	355人
	高学年水曜日	4～6年生	水曜日	9人	31回	211人
	計			51人	97回	837人
東児童館	低学年火曜日	1～3年生	火曜日	24人	31回	309人
	低学年金曜日	1～3年生	金曜日	24人	32回	336人
	高学年1	4～6年生	水曜日	5人	32回	151人
	高学年2	4～6年生	水曜日	5人	32回	138人
	計			58人	127回	934人
貫井南児童館	低学年火曜日	1～3年生	火曜日	14人	34回	402人
	高学年	4～6年生	水曜日	6人	34回	185人
	計			20人	68回	587人
緑児童館	低学年火曜日	1～3年生	火曜日	24人	35回	328人
	低学年金曜日	1～3年生	金曜日	24人	34回	372人
	高学年ハンドメイド	4～6年生	水曜日	11人	34回	319人
	計			59人	103回	1,019人
合計				188人	395回	3,377人

令和3年度の小学校低学年のグループ活動については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループ内を2つに分けて各週で交互に実施した（貫井南児童館を除く）。

(3) 夏期クラブとわんぱく団の中止について

変わらない新型コロナウイルス感染拡大防止への対策の観点から、年間計画にあった事業をその都度、感染対策に沿えるかを中心に見直しましたが、毎年の夏休みの恒例事業である7月の各児童館での「夏期クラブ」と8月の児童館合同野外行事「わんぱく団」（武蔵野公園くじら山で実施）は、令和3年度については、春先の時点で早々と中止を決定しました。

理由としては、どちらの行事も60人以上の小学生と30人前後のボランティアで実施していること、5日間（わんぱく団は6日間）継続させていること、そしてこれが一番の問題ですが、最後に1泊宿泊を行っていることと、集団での就寝や食事作りも伴うことがあるためです。それぞれで規模などを縮小して行うことも考えましたが、最後の2つは行事全体で最も人気のある内容なので、これができないということでの決断でした。さらに時期が猛暑の中ということで、マスクの問題もあったことも大きいです。

わんぱく団については、前年度の12月に中・高校世代から大人までのボランティアとリモートで会議を開き、意見を聞き、「ぜひ再開を」という希望はもらっていましたが、全国的に感染者数も減る兆候にない時期の決定時期だったこともあり、中止することはボランティアたちにも伝えましたが、納得してくれたようでした。

夏期クラブについては、少しでも「夏期クラブ」の雰囲気が出せればとの思いで、各児童館で7月から8月にかけて、主に2日間の日程で、小学生対象に工作の行事を行いました。少数ではありましたがボランティアを参加させたところに、少しですが夏期クラブの雰囲気を出しました。本町と緑の両児童館は天体望遠鏡を作り、合同で夜に星空観測会を予定しましたが、緊急事態宣言が出たことで残念ながら観測会だけは中止にしました。

2年続けて大きなイベントを中止としましたが、やはり大きな穴が開いた感は職員の方でも感じています。特に令和2年度と違い、小学生の夏休み期間もこれまで通りに戻ったことで、より夏休みが長く感じられた気がします。



本町児童館夏期クラブ2019



わんぱく団2019

(4) 四館合同行事

① 移動児童館『わんぱく号』

市内に残された手つかずの自然の中で子どもたちが走り回る、それが移動児童館「わんぱく号」です。「児童館のない地域に児童館を」という市民ニーズに応える形でスタートした移動児童館事業は、現在は子どもたちに貴重な自然体験をさせることを大きなコンセプトとして実施しています。昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、例年実施のほぼ半数で行っていた、調理や飲食を伴う事業は行いませんでした。

昨年度から行っている事前申込制を今年度も行い、感染状況に合わせて申込人数を緩和してきました。

主な事業内容は、木の板に焼き目をつけて看板を作る焼き板工作から行い、野外体験オリエンテーリング、巨大手作りトランプで神経衰弱など、工作や集団遊び中心の内容でした。毎回参加してくれる子どもが多く、今月は何するの、来月は何するのと移動児童館を楽しみにしてくれる子どもが多かったのが印象的です。10月に実施した「肝試し」と3月に実施した「逃走中」は、前者は土曜日の夜に、後者は日曜日ほぼ一日を使つてと、全館の合同事業として「移動児童館特別編」として行いました。事前申し込みでは多くの応募があり、とても人気がありました。(次ページ参照)

移動児童館「わんぱく号」実施内容

※ 7月は実施しない

場所		都立武蔵野公園くじら山及び隣接する野川河川敷					
日時		月1回、原則として第3土曜日(雨天中止)					
実施月	実施日	実施内容	参加者(人)			ボランティア(人)	合計(人)
			子ども	大人	小計		
4	17	段ボールフリスビー※1	0	0	0	0	0
5	15	焼き板工作	26	23	49	7	56
6	19	野外体験オリエンテーリング※1	0	0	0	0	0
8	28	真夏の夜の肝試し～キク・ゲイツのYOASOBI～※2	0	0	0	0	0
9	18	巨大すべり台で遊ぼう	23	4	27	4	31
10	16	恐怖探偵団 くじら山の七不思議を解きあかせ!(肝試し)	40	0	40	6	46
11	20	神経衰弱鬼ごっこ	18	4	22	2	24
12	18	野外体験オリエンテーリング	9	0	9	6	15
1	15	巨大ボーリング	26	8	34	3	37
2	19	玉ねぎで染物体験	17	4	21	3	24
3	13	逃走中 in くじら山	89	0	89	45	134
合計			248	43	291	76	367

※1 雨天のため中止とした。

※2 緊急事態宣言中のため中止とした。

②移動児童館特別編その1 恐怖探偵団

～くじら山の七不思議を解き明かせ！～

児童館夏の一大行事であるわんぱく団など、様々な事業を中止にする中、感染対策を講じつつ子どもたちのために何かできないかと模索し、事業の実施に至りました。当初の予定は8月実施でしたが、緊急事態宣言が出されたために、夜間の事業ということで中止としました。ですが、実施して欲しいという意見が子どもたちからもあったので、再度企画し10月に実施しました。季節が外れたかなとも思いましたが、定員40人のところ、5倍近くの申し込みがありました。

場所は武蔵野公園のくじら山の裏あたりにコースを作りました。参加者は4部制に分けました。スタート地点で怖い話を聞いてから1組ずつ順路を歩きました。順路には次々と妖怪が多数し、そこをクリアした後、ゴール付近で映像を見せられていると、突然妖怪が入って来る、という内容でした。参加した子どもたちは驚く子どもや泣く子ども、反応は様々でしたが、楽しんでくれていたようでした。引率した保護者からもコロナ禍で久しぶりのイベントに参加できて良かったという、感想をもらいました。



③移動児童館特別編その2

逃走中 in くじら山～きみはハンターから逃げ切れるか！？～

各児童館の中・高校生以上のボランティア力を久しぶりに結集し、上記肝試し同様に子どもたちがコロナ禍でも楽しめるような事業として、年度末の3月に実施しました。定員90人のところ、260名を超える申し込みがありました。

3部制で各部30人ずつに分け、子ども3人とボランティア1人で1チームになり、くじら山の原っぱで首謀者による開幕イベントをしたのち、テレビ番組の逃走中同様に、指定されたミッションを、続々と「放出」されるハンター（鬼）から逃げながらクリアしていくのが内容です。チームごとに「ライフ」を保持し、ミッションをクリアするごとに増え、ハンターにつかまるごとに減ります。結果ゲーム終了時に一番ライフを持っているチームが首謀者と一騎打ちの綱引きで対決、首謀者を退治すると、チームの勝利となります。



肝試し同様に、申し込みが多かったことで、まだまだ小学生を対象としたイベント等が少ないのではと考えました。そういう意味では児童館にかかる期待も大きいとは思いますが、久しぶりに大勢のボランティアが参加できたことも大きいと思いました。

④ 「児童館謎解きウォークラリー ～キク・ゲイツの逆襲～」

児童館謎解きウォークラリー

日 時：令和3年8月2日(月)午前9時から30日(月)午後5時まで

場 所：(1) 出題

市ホームページ 児童館コンテンツ内・市内各児童館

(2) 景品交換

市内各児童館

参加者：(1) 児童館謎解きウォークラリー総参加人数：30人(延べ人数)

(2) 児童館謎解きウォークラリー景品配布人数：23人

最終決戦

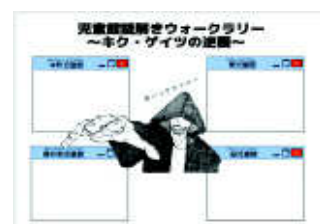
日 時：令和3年9月19日(日)午後1時30分から午後4時まで

場 所：小金井市総合体育館 小体育室

参加者：(1) 一般参加(小学生)：21人

(2) 子どもスタッフ(小学生)：15人

(3) ボランティア：高校生3人、専門学生1人



令和2年度実施したオンラインを利用した謎解きゲームを、令和3年度は一步進めた形で、オンラインと子どもを実際に集めることを合わせた「児童館謎解きウォークラリー」を実施しました。実施したのは夏休みである8月中で、市ホームページ上に各児童館から出題された「謎」を解くこと、実際に四つの児童館を一定の期間中に足を運び、そこでも出題される「児童館ミッション」を解くこと、そして全部クリアするごとに配布されたスタンプカードに押印され、すべて埋まると景品がもらえます。その中で特に早くクリアした子どもたちは、9月に市の総合体育館で行った「悪の首謀者との最終決戦」への参加権がもらえました。

このゲームは「電脳世界の王 キク・ゲイツ」が前年度の謎解きに引き続き、インターネットを通して、子どもたちに挑戦するという筋書きでしたが、「謎」は各児童館で小学生(子どもスタッフ)が考えてくれて(次ページ参照)、最終決戦では、参加者だけでなく子どもスタッフも「キクゲイツ側」でその対戦を手伝ってくれました。

最終決戦の内容は、それまでホームページ上でしか見ることのなかったキクゲイツが地上に姿を現し、新たに「謎」やゲームを仕掛けて子どもたちと戦うという内容でした。すべてクリアした子どもたちは舞台にいるキク・ゲイツにボールを当てるチャンスが与えられ、当てるたびにライフが減り、全部なくなると子どもたちの勝利です。勝利者には記念品として「キク・ゲイツ討伐証明証」が配布されました。

小学生は総勢30数人の参加でしたが、児童館にとっては約2年ぶりの子どもたちを集めたイベントでした。普段児童館では大勢の子どもたちを見ているが、「イベント」を通した子どもたちの活気ある姿を見て、何となく職員も心が沸き立つ思いでした。



電腦集会（子ども会議）について

子どもたちの主体的な意見反映の場として「電腦集会」（子ども会議）を実施しました。令和3年6月から9月まで月2回各児童館で高学年グループ参加者と一般申込者でオンライン脱出ゲーム準備会を実施し、各館担当ホームページの謎や児童館で挑戦するミッションを考えました。参加した子どもたち同士で問題を出し合ったり、ミッションを自分たちで解いてみて難しさを調整したり、感じたことを問題に反映させていました。

電腦集会（子ども会議）参加人数

（単位：人）

本町児童館で開催された子ども会議

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日にち	6/2	6/16	7/7	9/1	9/15	9/29
参加者	13	14	16	10	11	12

東児童館で開催された子ども会議

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日にち	6/2	6/16	7/7	9/1	9/15	9/29
参加者	6	6	5	6	6	4

貫井南児童館で開催された子ども会議

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日にち	6/2	6/16	7/7	9/1	9/15	9/29
参加者	8	8	7	7	7	8

緑児童館で開催された子ども会議

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日にち	6/2	6/16	7/7	9/1	9/15	9/29
参加者	8	8	8	9	6	8

⑤ 「会議だヨ！全員集合！パートⅡ」

令和元年度の四館合同行事「わんぱく団や、各児童館の行事でボランティアをしてくれた中学生以上のメンバーに参加してもらって、児童館とオンライン併用の会議を実施しました。内容はボランティア同士の近況報告、来年度の合同行事開催のための事前打ち合わせ等で、それぞれの考えを出し合って話し合いをしました。

子どもたちにとって小屋を作る体験は貴重である、学区や年代をとり超えて交流できるような行事は大切、との意見が多数あり、結果的にわんぱく団等大きなイベントの復活を待ち望まれました。またコロナ禍の中で、もっと今やれることとして、新しい企画の開拓が大事との意見もありました。

開催日	開催場所	参加者数			
		中学生	高校生	大人	合計
1月28日（金）	貫井南児童館	2	5	1（司会）	8
	オンライン	0	0	6	6

3 中・高校生世代の活動

中学校や高等学校ではコロナ禍において、部活動が制限されたり、文化祭や修学旅行が中止になったり、夏休みが大きく減るなどし、またアルバイトの雇用にも影響が出るなど、中・高校生世代の子どもたちにも大きな影響がありました。

令和2年度から断続的に続いた緊急事態宣言下では、東児童館と貫井南児童館で週1回午後8時までに行っている夜間開館を、午後7時までとしました。また、前年に引き続き、特に夏休みに中・高校生世代がボランティア経験できるような行事も中止としたことは、中・高校生世代の活動には大きな影響がありました。

そうしたことで前年度同様に中・高校生世代の利用が大きく減ることにつながったと思いますが、貫井南児童館は逆に中学生以上の子どもたちの利用が著しく増え、むしろコロナ前の令和元年度の利用者数を超えました。これは、部活動が中止になったことや、貫井南児童館は館庭がどの児童館よりも広く、密が回避しやすいなどが考えられましたが、小学生より多い日もあったので、職員も驚くほどでした。

一方、夜間開館の方ですが、貫井南児童館も含め2館とも利用者数は多くはなかったのですが、中・高校生世代に最近利用しない理由を聞くと、大人世代のボランティアの入館の人数を制限したことや、飲食ができないこと、と言われました。やはり、夜間開館の場は、ただの遊び場では満足してもらえないようです。早く元に戻していければと考えています。



中高生世代いちご狩り（東児童館）



夜間開館 ゲーム大会（貫井南児童館）

～夜間開館事業とボランティア活動～

※ 夜間開館事業は東児童館と貫井南児童館の2館で週1回午後8時まで実施(緊急事態宣言中は午後7時まで実施)

●本町児童館

【中・高校生世代がボランティアをした事業】

行事名	回数(回)	実施月	延参加人数(人)	内容
本町ゲームショー	1	4月	1	小・中学生対象ボードゲーム行事のボランティア
子ども会議	5	6月、7月、9月	5	児童館謎解きウォークラリーにおける子ども会議のボランティア

●東児童館

【☆ぶれいすHIGAJI☆】

日時	回数(回)	延参加人数(人)			主な内容
		中学生	高校生	計	
毎週水曜日 午後6時～8時	48	160	35	195	講師によるイベント、フリータイム等

【中・高校生世代がボランティアをした事業】

行事名	回数(回)	実施月	延参加人数(人)	内容
いとうおじちゃんの工作	1	12月	1	工作の補助

●貫井南児童館

【スペース@スクイ】

日時	回数(回)	延参加人数(人)			主な内容
		中学生	高校生	計	
毎週金曜日 午後4時～8時	46	264	155	419	スペース作戦会議、ボードゲーム、ゲーム大会、ミニビリヤード、レジンでアクセサリ作り、陶芸講座、バンドスタジオの利用

【中・高校生世代がボランティアをした事業】

行事名	回数(回)	実施月	延参加人数(人)	内容
小学生対象夏休み工作	2	7月、8月	7	小学生対象の工作のボランティア
子ども作戦会議	9	4月、5月、6月、11月、12月、1月、2月	18	小学生の集団遊びなどの活動の補助
低学年グループ	12	5月、6月、7月、11月、1月、2月、3月	15	小学生の工作や集団遊びなどの活動の補助
高学年グループ	13	5月、6月、9月、11月、2月	16	小学生の工作や集団遊びなどの活動の補助
ミニゴーストハンティング	1	10月	3	地域探検の引率
もくもくクラブ	2	12月、1月	4	小学生の工作や集団遊びなどの活動の補助
幼児グループ	1	2月	1	幼児グループでの節分のボランティア
ぬくぬくふえす	1	3月	3	縁日の出店ボランティア
小学生対象遠足口	2	3月	3	遠足のボランティア

●緑児童館

【中・高校生世代がボランティアをした事業】

行事名	回数(回)	実施月	延参加人数(人)	内容
夏休みミニ夏期クラブ	2	7月	2	工作の指導
緑ドキドキフェスティバル	1	3月	2	出店のボランティア

4 支援の必要な子どもたちへの取組

児童館は子どもたちの安全な遊び場です。また、工作や料理やレクリエーションなどを行っていることに関しては社会教育施設的な側面もあります。ですが、その設立や運営の基本になっている法律は児童福祉法です。児童館は児童福祉施設で、その理念は社会福祉に基づきます。

社会福祉とは人々の「しあわせ」や「ゆたかさ」のすべてであり、そのために子どもたちが健全に育つための「遊び」や「居場所」を提供するのが児童館です。社会福祉の実現における技術的な手段はソーシャルワークですが、児童館の実践もソーシャルワークの一つとして位置づけられ、近年相談的な事業が増えていることから、児童館職員の専門性も、ある程度ソーシャルワーカーとしての側面を持つということが言えると考え、職員も研修を重ねています。

児童館の利用の対象となる「児童」は0歳から18歳です。実際どの児童館にも0歳の乳児から高校生世代までの利用があり、言い換えれば0歳から18歳までの地域の子どもの育ちの場です。よって、小学校又は中学校の時に初めて遊びに来た子どももいれば、0歳から来る子どももいます。また、わずかな期間しか利用しなかった子どももいれば、本当に0歳から大人になるまで児童館を重要な居場所とした子ども（人）もいます。その中で一人一人の成長を見守り、必要な「支援」を行うことが児童館の役割です。

子どもへの支援ということでは、やはりコロナ禍ということでの、様々な配慮は外せません。

令和3年度の児童館は「コロナ禍」での実施ではありましたが、児童館自体としては、長期の休館措置が取られることもなく、秋以降は徐々に「やれること」も増え、少しずつ「日常」が戻っているような感じもしました。ですが、子どもたちの生活を見ると、子ども自身への感染は前年度の比ではないほど多かったので、今の状況はまだまだ続くのだとも思います。

そんな中、児童館に来ると言われなくてもきちんと手指を消毒し、マスクをきちんとして遊ぶ子どもたちの姿を見ると、何となく大人よりもこの現実慣れてきたのではと感じます。令和4年度もこの状況が続けば、小学校では半分の子どもたちが、コロナ禍の学校生活しか知らないことになり、中学校や高校では全生徒が知らないこととなります。特にマスクについては、大人の我々からも長いことそうした生活が続いていますが、子どもたちには、状況で外すことも指導していますが、外していいと言っても外さない子どもが多いことに気づきました。感染対策を意識できているとも考えますが、外せないのではとも考えます。また日常的にマスクを常時外せる日が来ると思いますが、マスクのことも含め、今後コロナ禍から日常が戻ることに對して、子どもたちに対する大人の細かい配慮が不可欠になって来るかもしれません。

「気になる子ども」という点では、令和3年度も各児童館共に、様々な子どもたちの問題行動は見られました。前年度は子どもたちから「ストレス」という言葉が多く聞かれたり、突然大声を上げる子どもたちの姿はどの児童館でも見られましたが、そういう点では全体的として、子どもたちも落ち着いてきたように感じられます。ですが、中には保護者に相談をしたり、また家庭的な問題も含まれていたことで、子ども家庭支援センターに通報したり、連携を求められたりしたケースもいくつかありました。

普通に見える子どもにも何か気になる瞬間が、行動や言動から見つかることがあります。これからも常に注意深く見守っていかねばなりません。



本町児童館の普段の様子

5 相談事業

児童館の相談事業は、主に東児童館で行っている専門相談事業と、子育てひろば内での相談事業、児童館職員に持ちかけられる相談があります。

専門相談以外にも市内の児童館すべてで、保育園や健康課など市の関係各課に協力を仰ぎ、栄養士、保健師、歯科衛生士による相談会や講習会を企画、実施しています。令和3年度もその予定で調整していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止等で市の関係各課が派遣事業を中止した期間もあり、ほとんどが実施できませんでした。

専門の臨床心理士による「子育て相談」と「思春期相談」は、予約制で毎月1回3枠設けています。依頼件数としては令和2年度と比較して、思春期相談は増え、子育て相談は減りました。思春期相談はすべて保護者からの相談でしたが、長引くコロナ禍で中・高校生世代の子どもたちが思うように行動できない、という悩みを抱えていることが伺えます。子育て相談については、前年度は自粛で行き場所を失った親子の悩みなどが多かったと聞いていますが、令和3年度に入り、そういった面では少し親子の生活にも余裕が出てきたことも、件数が減った要因の一つと考えます。

専門相談にまではいかないまでも、同じような内容の会話や相談は、他の児童館の子育てひろば内でも聞かれています。日常会話の中で子どもたちも、日常にストレスなどが感じ取れることも多くあります。今後も、専門相談だけでなく、職員が常に相談相手になり、児童館で活動することが不安やストレスの解消になることが重要だと感じています。



本町児童館 「屋上でじゃんけん」



東児童館 「組手仕に挑戦」

5 相談事業

児童館相談事業相談件数

※児童館の相談件数については、他機関も含めた支援や経過の観察が必要として記録したもののみ記載

大人からの相談件数(内訳)

(単位:件)

区分	健康	家庭・生活環境	発育発達	養育不安	虐待	基本的生活習慣	教育・しつけ	その他	合計
本町児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東児童館※	0	2	0	0	0	0	0	1	3
貫井南児童館	0	0	0	0	0	0	1	0	1
緑児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	2	0	0	0	0	1	1	4

※東児童館の相談件数のうち、専門相談件数は除く。

子どもからの相談件数(内訳)

(単位:件)

区分	健康	家庭・生活環境	友人関係	発育発達	虐待	あそび・生活習慣	学校・塾	その他	合計
本町児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東児童館※	0	0	0	2	1	0	0	0	3
貫井南児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑児童館	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	2	1	0	0	0	3

※東児童館の相談件数のうち、専門相談件数は除く。

相談対象の年代別内訳

(単位:件)

児童館名	乳児	幼児	小学生	中・高校生世代	計	子育て相談会等での相談件数 ※
本町児童館	0	0	0	0	0	0
東児童館	0	1	5	0	6	0
貫井南児童館	0	0	1	0	1	0
緑児童館	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	6	0	7	0

※相談会の相談は講師への質問は除く、各児童館で記録しておくことを講師から求められたもの

東児童館専門相談の件数

※(単位:日/件)

専門相談事業(子育て相談)	12	3
専門相談事業(思春期相談)	12	26

※専門相談事業は毎月1日の実施(事前申込制)で、各日1件ごとに3件までの枠を設けている(1日×3件×12ヶ月=年間最高36件)。

6 食育の取組

市では食育基本法に基づき、食育推進計画を策定（平成20年6月）していますが、児童館でも子育てひろば事業を始めとして、様々な対象で食育を推進する事業を実施しています。

子育てひろばや幼児グループで行う、離乳食や幼児食等の講習会から親睦を深めるための講習会や小学生以上を対象としたおやつ作りを中心とした調理や会食と幅も広く、また地域の農生産者の協力を受けての野菜収穫体験も行っています。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、幼児グループで行った芋ほり以外の関連事業については、飲食や調理を行うものは令和2年度に引き続き中止としました。

乳幼児と保護者対象の相談会及び食事会

【子育て相談会】

保護者に対する食事や栄養をテーマにした専門家による講習会及び相談会

実施児童館	行事名	回数(回)	延べ人数(人)	主な内容
本町児童館	離乳食講座	2	14	乳幼児のつどいへ参加する親子を対象に相談会や講座を実施
	幼児食講座	2	18	
東児童館	離乳食講座	3	32	栄養士による講座
貫井南児童館	離乳食相談会	2	19	0歳児の親子が乳幼児のつどいの行事で相談会に参加。
	栄養士相談会	0	0	
緑児童館	離乳食講習会	3	22	参加者と同じ目線で話せるような、児童館の利用者で専門性を持つ人に講師を依頼（実際に食材を用いた調理実習は中止）。健康相談会は夏の体調管理を食育の見地で行う予定だったが、保育園の保健師の派遣中止で行えなかった。
	食育相談会（幼児食講習会から変更）	2	47	
	夏の健康相談会	0	0	
	おやつ作り講習会	0	0	

【乳幼児食事会】

子育てひろばや幼児グループで行う、食を通じた交流会

実施児童館	行事名	回数(回)	延べ人数(人)	主な内容
本町児童館	離乳食講座における試食会	0	0	中止（離乳食講座自体は実施）
	幼児グループ食事会	0	0	
東児童館	子育てひろば会食	0	0	すべて中止としたが、子育てひろばの「たより」にて会食メニューを掲載紹介した。
	子育てひろば茶房	0	0	
	幼児グループ食事会	0	0	
	幼児グループ餅つき	0	0	
貫井南児童館	幼児グループ食事会	0	0	中止
	幼児グループ餅つき	0	0	
緑児童館	子育てひろば焼きいものつどい	0	0	中止
	幼児グループ交流会（飲食）	0	0	
	幼児グループ餅つき	0	0	

小学生と中・高校生世代対象の料理教室

【料理教室、地域農業生産者との交流】

主に小学生から中・高校生世代（一部3歳児以上の幼児を含む。）までを対象とした、手作りを基本とする料理教室。作り方の指導とあわせて、食を共にしながら相互の交流を図ることを目的としました。また地域の農業生産者と交流し、野菜の収穫体験、地場野菜を中心とした農作物の学習等も計画しています。

ですが、令和3年度は食材の使用や調理を行う事業をすべて中止としたことで、下記表のとおり計画していた多くの事業が実施できませんでした。

実施児童館	行事名	回数(回)	延べ人数(人)	※A	※B	※C	主な内容
本町児童館	低学年グループ	0	0	○		○	
	高学年グループ	0	0	○			
	本町アートファクトリー	0	0	○			
	夏期クラブ	0	0	○			
	エコクッキング	0	0	○		○	
	幼児グループいも掘り	4	62		○		
東児童館	低学年グループ	0	0	○			
	高学年グループ	0	0	○			
	わくわくキッズ	0	0	○		○	
	お菓子作り	0	0	○		○	
	中高校生タイム	0	0	○		○	
	夏期クラブ夕食作り	0	0	○			
	ファースト・ひがじ・キッチン	0	0	○			
	幼児グループいも掘り	4	145		○		
	低学年グループいも掘り	6	71		○		
高学年グループいも掘り	1	10		○			
貫井南児童館	もくもくクラブ	0	0	○			
	低学年グループ	0	0	○			
	高学年グループ	0	0	○			
	夏期クラブ夕食作り	0	0	○			
	各種行事	0	0	○			
	野菜収穫とクッキング	0	0	○	○		
	スペース@ヌクイ	0	0	○			
	幼児グループいも掘り	4	62		○		
緑児童館	低学年グループ	0	0	○			
	高学年グループ	0	0	○			
	ロビンソンクラブ	0	0	○			
	キッチンパーティ	0	0	○			
	その他小学生対象調理	0	0	○		○	
	夏期クラブ夕食作り	0	0	○			
	幼児グループ農業体験（じゃがいも、さつまいも掘り）	4	80	○	○		

※A 季節にちなんだ料理を作り、料理の楽しさや食に対する知識を学ぶ。

※B 地場野菜の利用や生産者との交流を行う。 ※C 環境に配慮した料理教室等を行う。

7 大人の活動

児童館は0歳から18歳までの子どものための施設ですが、保護者は「参加者」であり、さらには、児童館活動の「担い手」となることもあります。子育てひろばや幼児グループに参加する保護者は、参加者の時代を通して、その活動で親しくなった保護者同士で自主的な大人だけの活動に発展していきます。さらにそこから児童館事業や地域の「子どもたち」や「子育て」のためのボランティア活動につながることは多くありましたが、そうしていくことは児童館の事業趣旨の一つでもありました。

コロナ禍において、児童館が大人の活動やボランティアの参加数を制限したこともありましたが、令和3年度までに活動を休止、又は解散させた児童館の大人のグループも多くありました。ですが、それよりも顕著なのは、この10年の間、児童館の幼児グループの活動がその参加者数が減ってきていることからわかるように、これまで子どもが多少手を離れて、児童館で大人同士活動していこうとなる時期には、ほとんどの保護者（母親）が仕事についたりしていることもあり、児童館の中でグループが生まれることがなくなっています。よって、この「大人の活動」は現在停滞していると言わざるを得ず、全体的な見直しが必要と考えます。

地域に目を向けても、子供会、PTA、サッカーなどのスポーツ活動などで、その担い手を探すのが大変という話は、地域からも良く聞かれています。一方で、各小学校での放課後子ども事業やコミュニティスクールなど、地域連携の事業は近年拡大されて来ています。小学生の保護者も学童保育所の大規模化でもわかる通り、日常的に働いている人はとても多いので、人員の確保は大変だと思いますが、今後は児童館も中で活動を作っていくことから、今行われている地域の活動と連携していくことにシフトチェンジする必要があると考えます。

令和3年度に児童館で活動した自主活動グループ

児童館	グループ名	成り立ち	結成	人数 (人)	主な活動
東児童館	くりの実文庫	地域文庫	昭和44年	5	読み聞かせ、おはなし会
	わくわくキッズ	地域懇談会	平成11年	5	月齢行事「わくわくキッズ」の企画・実施
	チームあいあい	幼児グループ	平成22年	5	子育てボランティア
	レインボー	幼児グループ	平成25年	7	子育てひろば行事ボランティア
	あつぷるばい	幼児グループ	平成27年	9	幼児グループのシール作り
貫井南児童館	おはなし広場の会	読み聞かせの活動	昭和51年	6	児童館活動への公演、パネルシアター、影絵の制作
緑児童館	グリーンサタ	幼児グループ	平成11年	6	乳幼児活動の玩具の製作、小学生向け工作の指導

8 子ども週間行事、市民まつり子ども部門行事、新春たこあげ大会

子ども週間行事

市では、次代を担う子どもたちが、心身ともに健やかに逞しく成長することを願い、毎年5月1日～7日を子ども週間とし、すべての人が子どもの幸せを考える契機となることを目的に行事を展開します。

地区名	内容	実施日	場所	参加者数(人)	担当児童館	
地区行事	東部地区	ゲームにチャレンジ・子どもフェスタ	5月15日(土)	東小学校	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、市民まつり自体が中止となった。	東児童館
	北部地区	グリーンファイト!! オリエンテーリング	5月23日(日)	都立小金井公園		緑児童館
	中部地区	わくわく運動会	4月29日(祝)	都立武蔵野公園 くじら山		貫井南児童館

市民まつり子ども部門行事

青少年健全育成にかかわる諸団体が設ける健全な交流遊びの場において、子どもたちが明るくのびのびとした活動を行うことにより、地域の中で情操を育むことを目的に行事を展開します。

地区名	内容	実施日	場所	参加者数(人)	担当児童館
東部地区					東児童館
西部地区					本町児童館
南部地区					貫井南児童館
北部地区					緑児童館
中部地区					貫井南児童館
中央地区					本町児童館
子ども劇場					児童青少年係

新春たこあげ大会

日本の伝統的な遊びの「たこあげ」を、子どもたちに伝承し、また、小金井公園の豊かな自然の中で、子ども同士の交流と家族団らんの場を設け、未来を担う子どもたちの健全な育成を図る目的で実施します。(昭和35年から小金井公園で実施されており、東京都より昭和55年に市が事業を引き継いで現在に至る。) たこの絵は、市内小学生の応募による「たこ原画コンクール」入選作品を採用します。

〈令和3年度実績〉 日時 令和4年1月8日(土) 午後1時～午後3時

場所 都立小金井公園 いこいの広場

参加者数 340人 ※体験会として実施

参考：冒険遊び場等健全育成事業(プレーパーク事業)開催回数・来場者数(令和3年度)

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開催回数	9	4	21	19	9	19	18	18	18	16	15	19	185	
いけとおがわ (火～木・土/ 週4回)	342	0	971	670	288	336	550	651	869	573	610	1,128	6,988	
くじら山 (金/週1回)	386	308	295	176	65	262	350	480	389	298	293	388	3,690	
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止期間あり													合計(単位:人)	10,678

9 その他行事

●本町児童館 年間行事一覧

【乳幼児と保護者対象行事①】

行事名	内容	定員 (組)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
誕生日会	各月生まれの子どもを歌や手遊びで祝う。		437	12回 毎月	○			○
子育て相談会	保育士、看護師、栄養士、保健師による相談会		0	中止	○			○
ベビータッチセラピー	タッチセラピストによるベビータッチセラピー実技講習会	6	100	10回 8.3月を除く毎月	○			○
パパと遊ぼう	アスレチック、ベビーフォトアート、親子コンサート等		248	8回 4.7.8.10月を除く8回	○			○
食育講座「離乳食講習会・幼児食講習会」	栄養士による離乳食、幼児食の講座と相談会	6	32	4回 9.2月	○			○
応急救命講習会	小金井消防署指導による講習会		0	中止	○			○
七夕のつどい	笹飾り作り		34	1回 7月	○			○
乳幼児のつどいの水遊び	乳幼児対象ビニールプールでの水遊び		0	中止	○			○
歯磨き講座	歯科衛生士による講習会		0	中止	○			○
リトミック体験講座	リトミック講師によるリズム遊び体験講座	10	40	2回 10.1月	○			○
ミーツ・ザ・サンタクロース	サンタクロースと写真撮影		52	1回 12月	○			○
クリスマス会ミニ	サンタクロースと写真撮影、劇や演奏会		112	2回 12月	○			○
ブックスタート講座「乳幼児向け絵本の紹介と楽しみ方」	地域の読み聞かせボランティアによる絵本紹介や手遊び	6	8	1回 2月	○			○
節分のつどい	鬼退治の豆まき体験と手遊び、わらべ歌		54	1回 2月	○			○
助産師さんのベビーマッサージ体験講座	ベビーマッサージ実技講習会	6	12	1回 3月	○			○

【乳幼児と保護者対象行事②】

行事名	内容	定員	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
ひなまつりのつどい	お内裏様とお雛様の工作体験		48	1回 3月	○			○
幼児グループ合同運動会	幼児グループ火曜日、金曜日合同運動会		0	中止	○			○
幼児グループ子育て講座「リトミックの日」	リトミック講師によるリズム遊び		20	1回 2月	○			○

【定例行事】

行事名	内容	定員(人)	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
少年少女囲碁・将棋教室	囲碁、将棋、オセロなどのボードゲームの指導	5	29	11回 毎月	○	○	○	
本町卓球教室	スポーツ推進委員による卓球教室	10	105	11回 8月を除く毎月		○	○	
本町工作道場	工作体験行事	12	121	10回 6月から毎月	○	○		
ビック・ブック	職員による大きな絵本の読み聞かせ	25	235	11回 5月から毎月	○	○		
本町ゲームショー	子どもたちの意見を取り入れた室内ゲーム大会	12	77	12回 毎月	○	○	○	

【館外行事】

行事名	内容	定員	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
遠足	公共交通機関を利用した遠足		0	中止		○		
地域オリエンテーリング	近隣地域でのオリエンテーリング		0	中止		○		

【その他行事①】

行事名	内容	定員	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
夏期クラブmini 1st	ミニプラネタリウム工作	10	10	1回 7月		○		
夏期クラブmini 2nd	都立小金井公園での天体観測会（緊急事態宣言発令のため中止）	0	0	中止		○		

【その他行事②】

行事名	内容	定員 (人)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
避難訓練	児童館、学童合同で行う地震、火災を想定した避難訓練		367	6回 6. 11. 3月	○	○	○	○
異世代交流事業	乳幼児のつどいでの育児体験の実施		0	中止			○	
超・人狼ゲームナイト	中・高校生世代向け交流会	10	3	1回 4月			○	
本町Tリーグ	卓球トーナメント	10	39	4回 4. 8. 12. 3月		○	○	
アート・クラフトスクール	工作行事	10	9	1回 9月		○		
本町ダンス・ラボ	ダンス講習会		27	3回 9. 11. 3月		○		
本町マンガ・ラボ	大学生によるイラストの描き方、スクリーントーンの貼り方、ベタの塗り方の指導	10	10	1回 11月		○		
本町アートファクトリー	地域ボランティアによる工作	12	24	2回 1. 3月		○		
フェルト職人と工房体験	フェルトでいちごショートケーキ作り	10	8	1回 2月		○		
利用者懇談会	子どもが利用する保護者など と行う意見交換会		4	1回 2月				○
人形劇団公演	近隣大学人形劇団による人形劇の上演		0	中止	○	○	○	○
子ども縁日外伝	本町児童館のマスコットキャラクターを再募集		36	1回 2月	○	○	○	○

●東児童館 年間行事一覧

【乳幼児と保護者対象行事】

行 事 名	内 容	定員 (組)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
離乳食講座	季節に合わせたメニューでの離乳食作り講座。栄養士の方の協力により行う。	10	32	3回 6. 10. 2月	○			○
ばおばおミニ講座	イヤイヤ期などをテーマに講師が話し質問などを受ける。	10	23	2回 11. 3月 (6月中止)	○			○
名札講習会	子育てひろば利用者を対象にした名札制作を、地域の方の協力を受けて行う。	8	28	3回 5. 9. 1月	○			○
乳幼児のための救急法	乳幼児の誤飲や水の事故に対応する応急救護訓練		0	中止	○			○
誕生日会 (子育てひろば事業)	誕生月の乳幼児を皆で祝う。自主グループ「レインボー」作製のフォトフレームをプレゼント。		114	12回 毎月	○			○
おはなし会 (子育てひろば事業)	くりの実文庫の協力による絵本の読み聞かせ、人形劇、手遊びなど		152	11回 毎月 (8月を除く)	○			○
リズム遊び (子育てひろば事業)	歌や踊りなど、親子のリズムあそび	16	215	10回 毎月 (4. 8月を除く)	○			○
おとうさんもいっしょ (子育てひろば事業)	父親の子育てひろば利用の広がりを目指して開催		220	12回 毎月	○			○
ばおばおりさいくる (子育てひろば事業)	子育てに関する使わなくなったものの交換会		39	2回 4. 10月	○			○
ひろばクリスマス会 (子育てひろば事業)	地域のハンドベルサークル「ノイ」によるクリスマスソングの演奏	30	52	1回 12月	○			○
子育てセミナー	紙コップ人形を使った参加劇 リトミック	各10	32	2回 12. 2月	○			○
ファースト・ひがじ・キッチン	幼稚園児～小学校2年生対象の料理教室		0	中止	○	○		○
親子でつくろう！	藍の葉っぱでたたき染めエコバッグ作り	10	16	1回 8月	○			○
幼児グループ水遊び	夏の水遊び		0	中止	○			○
幼児グループ合同運動会	栗山公園で行う幼児グループの合同運動会		70	1回 10月	○			○
ちょこっと3・4・5・6	幼稚園児世代とその保護者への部屋開放		237	10回 7. 12. 3月	○			○

【定例行事】

行事名	内容	定員 (人)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
おはなし会	くりの実文庫の協力による絵本の読み聞かせ、人形劇、工作など	8~10	76	10回 毎月(4.8月を除く)	○	○		○
わくわくキッズ	わくわくキッズの会の協力による工作など	8~12	61	4回 7.10.12.2月	○	○		○
いとうおじちゃんの仕事	地域ボランティアの協力による小学生を対象にした工作教室	8~10	55	8回 5.6.9.10.11.12.1.2月		○		
マンガイラスト教室	東京学芸大学漫画研究部や学生ボランティアの協力による教室。一緒に絵を描きながら技術を学ぶ。	8~15	65	6回 4.6.9.11.1.2月		○	○	
ナオセルマン博士のおもちゃ病院	おもちゃ病院グループの協力によるおもちゃの修理		49	10回 毎月(8.1月を除く)	○	○	○	○

【館外行事】

行事名	内容	定員	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
春の遠足	都内方面へのテーマパーク見学		0	中止		○		
とびだせ！中高生～夏の陣～	中・高校生世代が自ら企画・立案し、奥多摩での川遊びやハイキングを行う		0	中止			○	
秋の遠足	小学生対象の館外活動		0	中止		○		
アウトドア体験	ハイキング		0	中止		○		
とびだせ！中高生～冬の陣～	中・高校生世代が自ら遠足を企画・立案し、いちご狩りサイクリングを実施した。	12	6	1回 3月			○	
低学年お別れ遠足	火、金曜日グループ合同の遠足		0	中止		○		

【その他行事】

行事名	内容	定員	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
新一年生歓迎会	職員の紹介や児童館利用の説明後、館内スタンプラリーを楽しむ	10	7	1回 4月		○		
おばけ屋敷	中・高校生世代が主体となり準備		0	中止	○	○	○	○
利用者懇談会	児童館利用者、ボランティア、地域の方が参加する懇談会	10	6	1回 10月				○
東児童館運営会議	地域の方々及び児童館利用者による児童館運営への提言・意見	5	16	3回 10. 11. 12月				○
避難訓練	たまむし学童保育所と合同の火災及び地震の発生を想定した訓練		108	3回 4. 10. 3月	○	○	○	○
避難訓練	火災及び地震の発生を想定した訓練 児童館のみで午前中に実施		0	中止	○			○
夏休み工作	レジンでキラキラコースター作り（3日間）	各日10	30	3回 8月		○		
ハロウィンパーティー	グループごとに仮装して近隣やグループホームを巡る		0	中止		○		
やってみよう！焼き芋体験	たき火の準備等も含めて焼き芋を体験する。たまむし学童保育所と合同実施		0	中止	○	○		○
料理をしよう	季節に合わせた料理体験		0	中止		○		
ひがじかるちゃー	地域ボランティアによる卓球教室	10	5	1回 2月		○		
中高校生と乳幼児ふれあい（赤ちゃんと遊ぼう）	乳幼児の発達と手遊びを教わり、子育てひろばで実際に乳幼児とふれあう。		0	中止			○	
とまるぜ！中高生	中・高校生世代企画による館内での宿泊		0	中止			○	
ちょこっとフェスタ	小学生グループが模擬店を実施	50	82	1回 3月	○	○	○	○

●貫井南児童館 年間行事一覧
【乳幼児と保護者対象行事】

行 事 名	内 容	定員 (組)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
誕生日会	読み聞かせと誕生月の子にプレゼント		165	11回 2月を除く毎月	○			○
寝相アート	子どもを季節の飾りの前に座らせて写真撮影する		133	12回 6. 8. 10. 11. 12を除く毎月	○			○
ヌクイ・ダディ 集まれ	乳幼児の父親の参加を促す行事		142	11回 2月を除く毎月	○			○
幼児グループ水遊び 交流会	幼児グループのみ		0	中止	○			○
キッズ水遊びの日	幼稚園児世代の水遊び		0	中止	○			○
乳幼児のつどい 水遊び	庭にプールを出して水遊びをする		0	中止	○			○
フェルトの名札 講習会	地元のフェルト作家の指導による子どもの名札作り		0	中止	○			○
幼児グループ合同 打合せ会	火、水曜日の幼児グループ合同の運動会の打合せ会		10	1回 10月	○			○
幼児グループ合同 運動会	火、水曜日の幼児グループ合同の運動会		34	1回 10月	○			○
離乳食相談会	栄養士による離乳食の相談会		19	2回 6. 10月	○			○
親子ヨガ	親子で参加できるヨガ体験		14	2回 7. 11月	○			○
サンタさんと写真を 撮ろう	サンタと写真撮影会		34	1回 12月	○			○
0歳児の健康について の相談会	保育園の看護師による相談会		0	中止	○			○
月齢別交流会	ひろばにあまり来ない月齢の親子を対象とした交流会		18	2回 6. 11月	○			○
豆まきごっこ	カラーボールを使った豆まきごっこ		20	1回 1月	○			○
幼児グループ活動紹介	幼児グループについての簡単な紹介		11	2回 1. 3月	○			○
あそぼうキッズ	幼稚園児世代の親子が自由に広い部屋で遊べる時間を設ける		15	3回 5. 9. 3月	○			○

【定例行事】

行事名	内容	定員	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
ぬくいギネスの日	児童館の遊具を使用して自由来館児対象に行う遊び		228	11回 2月を除く毎月		○	○	
子ども作戦会議	子どもの意見表明の場、主体的な活動の場		124	17回 月2回程度(7月～9月を除く)		○	○	
将棋に挑戦	地域の将棋ボランティアの指導による将棋の対局		63	10回 8.2月を除く毎月		○	○	
ナオセルマン博士のおもちゃ病院	おもちゃの病院グループによるおもちゃの修理		41	10回 2月を除く毎月	○	○		○
もくもくクラブ	低学年グループにに参加していない小学校1年生から3年生までを対象として行う工作		80	10回 4.7.8月以外毎月		○		

【館外行事】

行事名	内容	定員(人)	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
小学生対象遠足	多摩六都科学館へのサイクリング		4	1回 2月		○		
小学校低学年グループお別れ遠足	都立武蔵野公園での集団遊び		6	1回 3月		○		
小学校高学年グループお別れ遠足	都立井之頭恩賜公園へのサイクリング		5	1回 3月		○		

【その他行事】

行事名	内容	定員(人)	延べ参加人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
新1年生歓迎会	新1年生に職員と上級生から児童館の使い方を紹介、おやつ調理など		0	中止		○		
お話のびっくり箱	パネルシアターの上演とゲーム		0	中止	○	○		○
中高生世代赤ちゃんボランティア	中高生世代による乳幼児とのふれあいボランティア		0	中止	○		○	
小学生対象行事	ミニピリヤード、スラックライン体験、ボードゲーム体験		16	3回 9.12.1月		○		
防災訓練	公民館との消火・避難訓練、児童館単独訓練		66	4回 6.7.3月	○	○	○	○

行 事 名	内 容	定員 (人)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
夏休み工作会	夏休み午前中に中・高校生世代ボランティアの協力での小学生対象工作		69	4回 7.8月		○	○	○
ミニ・ゴースト ハンティング	児童館の周辺でポイントを回る。中学生以上のボランティア参加		16	1回 10月		○	○	○
利用者懇談会	利用者の保護者との意見交換会		8	2回 7.10月				○
天体観察会 ～冬の星空解説	東京学芸大学天文サークルによる天体観測と解説		0	中止		○		○
フェルトの小物屋 さん	フェルトでの小物作り		12	2回 12.1月		○	○	
パネルシアターのクリ スマス会	おはなし広場の出演によるクリスマス会		30	1回 12月	○	○		○
年度末ライブ	高校生バンド・ダンスグループの音楽演奏による交流会		0	中止	○	○	○	○
たこあげ大会で手作り 凧をあげよう	老人会の指導による凧作り		0	中止		○		
レジンでキーホルダー を作ろう	講師による小学生対象講座と高校生による小学生対象講座		21	2回 6.11月		○		
バンド室施設利用	中・高校生世代への防音室の貸出		187	112回 2月を除く			○	
ぬくぬくふえす	児童館で活動しているグループや中・高校生世代が遊びの店を出店		46	1回 3月		○	○	○

●緑児童館 年間行事一覧
【乳幼児と保護者対象行事】

行事名	内容	定員 (組)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
おやつ作り講習会	離乳食卒業後の安全で栄養価の高い手作りおやつ調理講習会		0	中止	○			○
離乳食講習会	0歳児の保護者を対象とした離乳食についての説明と調理	10	22	3回 6.10.2月	○			○
食育相談会	離乳食卒業後からの、幼児の食生活全般について、子育てひろば内で保護者から相談や質問を受けた。2月は離乳食講習会の後で、講師がひろば内で食育についての質問を受けた。	20	47	2回 1.2月	○			○
アイテム交換会	乳幼児向けアイテムの不要になった人から欲しい人への譲渡		80	3回 5月.9月.2月	○			○
健康相談会	市の専門職（保健師、歯科衛生士等）による健康指導および相談（夏の健康相談のみ実施）		26	1回 6月	○			○
ベビーマッサージ	地域の保護者の指導による乳児と保護者のふれあい指導	10	37	3回 7.10月	○			○
ベビーサイン	同上	10	18	1回 1月	○			○
応急救命講習会	小金井消防署の協力による乳幼児の事故対応の指導	15	18	1回 3月	○			○
ほのぼのサロンのクリスマス会	地域サークルによるクラシックコンサート、サンタクロースからのプレゼント	20	49	1回 12月	○			○
その他季節行事	七夕、焼いも、豆まきなど季節に合わせた親子イベント		101	2回 7.1月	○			○
乳幼児お話し会(誕生日会で実施)	地域ボランティアによる絵本の読み聞かせやパネルシアターの上演。		110	3回 1月から毎月	○			○
誕生日会(乳幼児お話し会を編入)	各月生まれの子どもを歌や手遊びで祝う。	9	342	12回 毎月	○			○
ほのぼのサロンの水遊び	館庭にプールを出して水遊び		0	中止	○			○
父親参加推進事業	土曜日に実施の父親の地域参加を推進するための事業			通常のひろば事業と同じとした。 平日の利用や、毎土曜日での来館が増えたので、事業に「父親」の明記を外した。	○			○
インスタ映えの日	季節に合わせた背景や衣装で子どもたちを撮影		282	28回 概ね月2、3回	○			○
幼児グループ合同運動会	2つの幼児グループ合同の運動会		0	中止	○			○
幼児グループ芋ほり	初夏のジャガイモ堀りと秋のさつまいも堀り		80	4回 6.10月	○			○
母親セミナー	子育てしながら手軽にリラックスできるヨガ体験	20	20	1回 2月	○			○

【定例行事】

行 事 名	内 容	定員 (人)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
グリーンサンタの手作り工房	児童館自主サークル「グリーンサンタ」の指導によるペーパークラフト	各10	79	10回 毎月（8.3月を除く）		○		
キッチンパーティ	ボランティア講師の指導による本格的な洋菓子を中心としたスイーツ作り			中止		○	○	
ロビンソンクラブ	幼稚園世代から小学校低学年までを対象とした工作等の職員による指導	各幼6 小12	186	15回 毎月（3月を除く。12月より幼児と小学生の実施日を分けた）	○	○		
おはなしのとびら	保護者ボランティアによる昔語り、絵本の読み聞かせ、影絵の上演			中止	○	○		○
あつまれみどりっ子	幼稚園世代の居場所作りと保護者の交流のための工作や遊びの行事	各概 ね10（5 組）	96	14回 概ね月2回	○			○
ナオセルマン博士のおもちゃ病院	おもちゃの病院グループによるおもちゃの修理		61	11回 毎月（8月を除く）	○	○	○	○

【館外行事】

行 事 名	内 容	定員	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
野外事業（春、秋）	千葉県野田市清水公園内フィールドアスレチックへの遠足、他			中止		○		
低学年グループお別れ遠足	火曜日・金曜日グループ合同遠足	グループ活動参加者		中止		○		
高学年グループお別れ遠足	昭和記念公園へサイクリング	グループ活動参加者	7	1回 3月		○		

【その他行事】

行 事 名	内 容	定員 (人)	延べ参加 人数(人)	回数	幼	小	中高	大人
				実施月				
おはなしのとびら新一年生歓迎会	児童館紹介クイズ、保護者ボランティアによる昔語り、影絵の上演			中止	○	○		○
異世代交流事業	中・高校生世代対象の子育てひろばボランティア体験			中止			○	
利用者懇談会、自主グループ打合せ会	児童館で活動している自主グループや子育てひろば利用者との児童館の事業や地域の子どもの問題についての意見交換会、共同のイベントの企画、調整等		2	2回 11.3月（利用者懇談会2回実施。その他1回中止）				○
防災避難訓練	開館時の火災や地震を想定した来館者の避難誘導訓練。学童保育所と合同で2回、午前の乳幼児と保護者利用時を想定した単独でを2回行った。		346	5回 7.11.3月（3月は午前は行わず）	○	○	○	○
夏休みミニ夏期クラブ	望遠鏡作りと天体観測会（天体観測会は中止とした）		24	2回 7月	○	○	○	○
エコクッキング	環境やごみの排出の制限を意識しながら料理を作る食育事業			中止		○		
春のスイーツ作り	春の果物や食材を使用したお菓子作り			中止		○		
子ども将棋サークル	市民の指導申し出を検討し試行。小学生が将棋の基礎や実戦を教わる。	5	19	4回 2.3月（月2回）		○		
みどりドキドキフェスティバル	のみの市（子ども縁日）に替わる、ゲーム・お化け屋敷の縁日。小学生グループなどが出店	120	138 (出店者含む)	1回 3月	○	○	○	○

IV 資料



低学年グループ（本町児童館）



藍の葉たたき染めエコバッグ作り
（東児童館）



幼児グループ 雪だるま工作（貫井南児童館）



子育てひろば 手遊び（緑児童館）

1 利用状況

年間利用状況

単位：人

		本町	東	貫井南	緑	合計
幼 児		3,107	5,568	1,904	3,429	14,008
前年		2,591	4,166	1,396	3,567	11,720
小 学 生	1年	787	1,871	1,055	1,141	4,854
	2年	1,988	1,490	1,431	2,453	7,362
	3年	1,161	813	595	1,558	4,127
	4年	1,363	3,078	689	2,652	7,782
	5年	1,540	2,580	2,838	749	7,707
	6年	2,792	234	1,428	990	5,444
	小計	9,631	10,066	8,036	9,543	37,276
	前年	7,969	4,726	6,571	6,941	26,207
中 学 生	1年	578	358	1,383	346	2,665
	2年	0	99	681	75	855
	3年	5	91	151	5	252
	小計	583	548	2,215	426	3,772
	前年	82	248	848	235	1,413
高 校 生	1年	20	11	78	6	115
	2年	59	2	361	131	553
	3年	3	61	5	0	69
	小計	82	74	444	137	737
	前年	38	47	355	54	494
大 人		3,072	5,824	2,025	3,376	14,297
前年		2,556	4,413	1,542	3,495	12,006
合 計		16,475	22,080	14,624	16,911	70,090
前年		13,236	13,600	10,712	14,292	51,840
開館日数（日）		279	279	273	280	

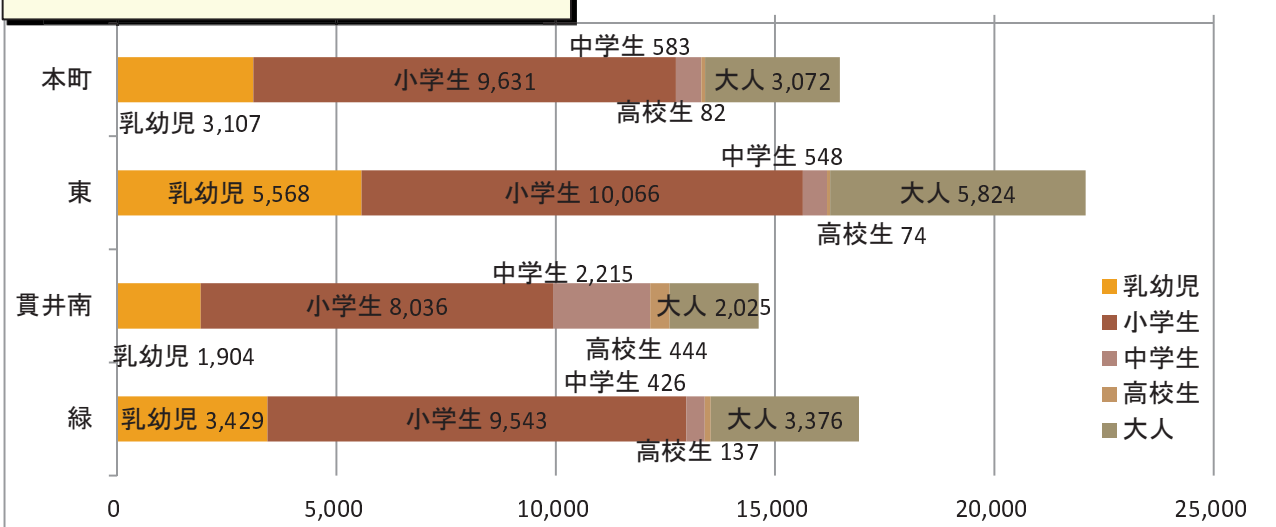
1館1日平均利用者数

63人

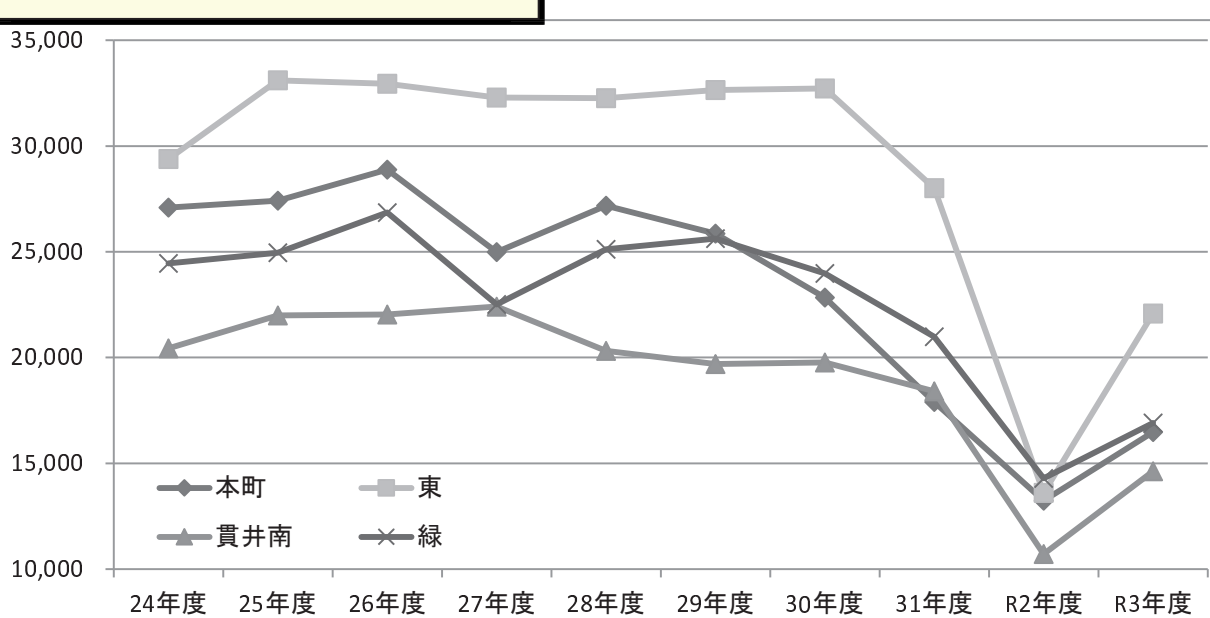
(再掲：小～高) 37人

(再掲：中～高) 4人

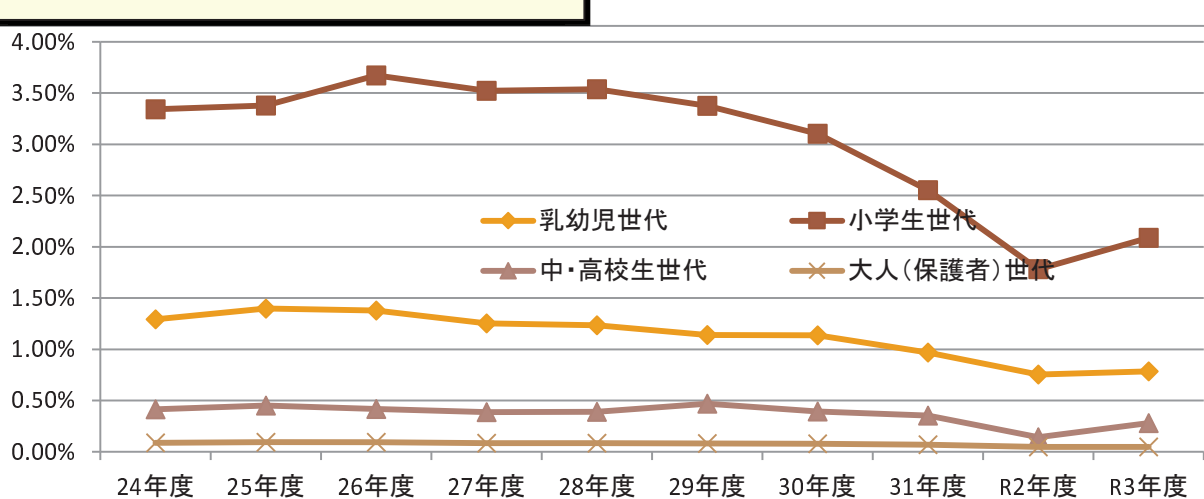
児童館 4 館の利用者数の推移 (人)



児童館 4 館の利用者数の推移 (人)



各世代の児童館利用者割合の推移 (%)



2 予算関係

令和3年度 児童館関係予算 ※表中「*」は新型コロナウイルス感染症の関係経費が含まれるもの。

(歳入)

(単位:千円)

節	説明	調定額	再掲(児童館)
児童福祉費補助金 (国庫補助金)	子ども・子育て支援交付金*	127,808	6,162
児童福祉費補助金 (国庫補助金)	次世代育成支援対策施設整備交付金	3,276	3,276
児童福祉費補助金 (都補助金)	子育て推進交付金	841,137	2,202
児童福祉費補助金 (都補助金)	東京都子ども・子育て支援交付金*	117,891	6,162
児童福祉費補助金 (都補助金)	児童館環境整備事業補助金	3,276	3,276

※本表は、児童館運営審議会に要する経費、児童館維持管理に要する経費及び児童館運営に要する経費を合算して計上しています。

(歳出)

(単位:千円)

節	節合計	説明	決算額
報酬	4,878	児童館運営審議会委員報酬(10人) 会計年度任用職員(月額)報酬(1人) 会計年度任用職員(時間額)報酬	203 2,237 2,438
職員手当	447	会計年度任用職員期末手当	447
報償費	297	児童館運営審議会保育室保育士謝礼 講師の報償 その他の報償	0 192 105
旅費	0	特別旅費	0
需用費	7,909	消耗品費* 燃料費 印刷製本費 光熱水費(電気・ガス・上下水道料金) 緊急修繕料(建物・備品・車検等) 賄材料費 医薬材料費*	566 27 2 5,706 1,418 0 190
役務費	737	郵便料 電話料 傷害・賠償レクリエーション保険料 洗濯料 ピアノ調律料 事業系ごみ処理手数料	14 210 399 21 20 73
委託料	30,552	児童館運営審議会会議録作成委託料 消防用設備保守点検委託料 定期清掃委託料 冷暖房機保守点検委託料 グリストラップ清掃委託料 非常通報装置保守管理委託料 管樹清掃委託料 樹木剪定委託料 樹木消毒委託料 児童館運営委託料	50 77 1,073 53 163 132 163 396 69 28,376
使用料及び 賃借料	229	清掃モップ借上料 入園料 自動車借上料 印刷機借上料	32 2 0 195
工事請負費	9,829	本町児童館トイレ改修工事	9,829
備品購入費	328	備品購入費	328
補償補填及び賠償金	0	災害賠償等補償金	0

3 施設概要

<本町児童館>

所在地 小金井市本町5丁目4番25号 電話 042-383-1176
規模 土地面積 700.24 m² (ほんちょう学童保育所併設)
建物総床面積 558.12 m² (1階 280.32 m² / 2階 277.80 m²)
うち児童館床面積 354.74 m²
開館 昭和41年5月1日
改築 昭和57年10月1日



<東児童館>

所在地 小金井市東町4丁目25番7号 電話 042-383-1177
規模 土地面積 1,256.17 m² (たまむし学童保育所併設)
建物総床面積 683.64 m² (1階 465.03 m² / 2階 218.61 m²)
うち児童館床面積 386.71 m²
開館 昭和43年5月1日
改築 昭和63年4月16日



<貫井南児童館>

所在地 小金井市貫井南町4丁目3番23号 電話 042-383-9777
規模 土地面積 1,880.82 m² (公民館貫井南分館併設)
建物総床面積 1207.19 m²
(1階 548.31 m² / 2階 503.61 m² / R室他 155.27 m²)
うち児童館床面積 324.63 m²
開館 昭和48年5月1日



<緑児童館>

所在地 小金井市緑町4丁目18番25号 電話 042-383-6910
規模 土地面積 1,209.52 m² (みどり学童保育所併設)
建物総床面積 650.54 m²
(1階 378.13 m² / 2階 264.74 m²)
うち児童館床面積 391.25 m²
開館 昭和62年5月1日



4 職員体制

児童館長 児童青少年課長兼務

<本町児童館>

常勤職員 2人 会計年度任用職員 1人

<東児童館>

「NPO法人ひ・ろ・こらぼ」に業務委託 (平成18年10月より)

<貫井南児童館>

常勤職員 3人

<緑児童館>

常勤職員 3人



この一年のあゆみ(令和3年度)

小金井市 本町・東・貫井南・緑児童館

発行 小金井市 子ども家庭部 児童青少年課
TEL 042-387-9847

発行日 令和4年10月